

平成22年度（2010年度）

事業報告書

財団法人 日本テニス協会

[目次]

平成 22 年度主要会議報告		3 頁
平成 22 年度表彰伝達式受賞者一覧		4 頁
平成 22 年度事業報告書(寄付行為事業別)		6 頁
平成 22 年度事業報告書(本部・専門委員会別)		
総務・財務本部	総務委員会	10 頁
	公益法人化対策委員会	11 頁
	広報委員会	12 頁
	IT 委員会	14 頁
	テニスミュージアム委員会	14 頁
強化本部	ナショナルチーム	16 頁
	NTC 運営委員会	23 頁
	ジュニア委員会	24 頁
	学生強化委員会	27 頁
	ワンコイン制度推進委員会	28 頁
	クラブ JTA 委員会	28 頁
普及・指導本部	公認指導者養成委員会	30 頁
	普及推進委員会	31 頁
	中体連対策委員会	33 頁
	スポーツ環境委員会	34 頁
	アンチ・ドーピング委員会	35 頁
トーナメント本部	ジャパンオープン委員会	36 頁
	トーナメント委員会	37 頁
	国体委員会	43 頁
	実業団委員会	46 頁
	ベテラン委員会	47 頁
	審判委員会	50 頁
専務理事直轄	全国プロジェクト	52 頁
	財務管理委員会	53 頁
常務理事会直轄	倫理委員会	53 頁
	危機管理委員会	53 頁
	国際委員会	54 頁

平成22年度主要会議報告

平成22年

4月22日(木)	第1回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
5月13日(木)	第2回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
5月24日(火)	第1回理事会	岸記念体育会館1階会議室
5月29日(火)	第1回評議員会	岸記念体育会館5階会議室
6月24日(木)	第3回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
7月22日(木)	第4回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
8月26日(木)	第5回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
9月21日(火)	第1回臨時理事会	岸記念体育会館5階会議室
9月24日(金)	第6回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
10月14日(木)	第7回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
11月25日(木)	第8回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館1階会議室
12月15日(木)	第9回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室

平成23年

1月26日(水)	第2回臨時理事会	岸記念体育会館5階会議室
1月27日(木)	第10回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
2月24日(木)	第11回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
3月10日(木)	第12回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
3月17日(水)	第2回理事会	岸記念体育会館1階会議室
3月17日(水)	第2回評議員会	岸記念体育会館5階会議室
3月24日(水)	最初の評議員選定委員会	岸記念体育会館5階会議室

以上

平成22年度表彰伝達式受賞者一覧

功労賞

東北テニス協会 : 高橋常治・戸川稔朗・高橋俊明・松原繁雄・泉山元・北林康司
関東テニス協会 : 杉澤雅敦・井村孝一・大友昭敏・南野泰造・松本憲明・伍堂英雄
東海テニス協会 : 陰山正敏・木下洋子
関西テニス協会 : 坂井幸司・梶一雄・浜脇久子・島村安彦・近藤正昭
九州テニス協会 : 重松隆矣

優秀団体賞

日本テニス協会 : 早稲田大学

最優秀団体賞

日本テニス協会 : リビック (北日本物産株式会社)

優秀選手賞

ナショナルチーム : 森田あゆみ

最優秀選手賞

J T A : 国枝慎吾

ジュニア大賞

ナショナルチーム : ジュニアデビスカップ決勝大会 日本代表チーム
<内田海智・河内一真・守谷総一郎>

最優秀トーナメントディレクター賞

トーナメント委員会 : 川廷尚弘

最優秀指導者賞

ナショナルチーム : 岩本功

ベストボールパーソン賞・ベストラインパーソン賞

審判委員会 : 該当者なし

最功労ボランティア賞

日本テニス協会 : 伊東弘一

クラブ賞

日本テニス協会 : 該当なし

企業賞

日本テニス協会 : ヨネックス株式会社
ユニチカトレーディング株式会社
鶴沢ネット株式会社

メディア賞

地域推薦（四国テニス協会）：愛媛新聞社

メディア賞

広報委員会：日本経済新聞社

以上

財団法人 日本テニス協会 平成22年度事業報告書

自平成22年4月1日至平成23年3月31日

1. テニスの普及及び指導

- (1) 中学校、高等学校指導者及び選手に対する支援事業の策定（ジュニア委員会）
- (2) ナショナルトップコーチブロック派遣ジュニア及び指導者講習会（ジュニア委員会）
- (3) 全国プロジェクトが推進するブロックトレセン構想での推進策への協力（ジュニア委員会）
- (4) J T Aホームページを利用した広報事業（ジュニア委員会）
- (5) ブロックステージでの発掘、育成フィールド構築（ジュニア委員会）
- (6) 各指導者を対象とした指導教本制作に関する事業（公認指導者推進委員会）
- (7) 中学校・高等学校指導者に対する支援事業（公認指導者推進委員会）
- (8) 47都道府県テニス協会と他団体との協調と連携により、より多くのテニス愛好家を生み出す活動（普及推進委員会）
- (9) キッズプログラムの普及として PLAY+STAY を通じて推進し全国での活動に協力する（普及推進委員会）
- (10) コーチーズカンファレンスの開催（普及推進委員会）
- (11) 日本中体連加盟に関する促進事業（中体連対策委員会）
- (12) JOC スポーツ環境委員会、他の競技団体、テニス団体そして環境保全組織と連携し、テニス界を中心に自然環境保全と整備を目的とした活動 [3R 推進]（スポーツ環境委員会）

2. 全日本テニス選手権大会及びその他のテニス競技会の開催並びに国内で開催されるテニス競技会の後援、公認

- (1) 国内大会の開催ならびに支援、J T A公式トーナメントの開催ならびに支援、2011年テニスカレンダーの日程調整、J T Aランキングシステムの拡充と検証、選手登録の拡充と管理（トーナメント委員会）
- (2) 第34回全日本都市対抗テニス大会抽選会ならびに準備等（国体委員会）
- (3) 第71回国民体育大会（岩手県）第1回中央競技団体正規視察（国体委員会）
- (4) 全日本都市対抗テニス大会の実施（国体委員会）
- (5) 第65回国民体育大会抽選会並びに準備等（国体委員会）
- (6) 第65回国民体育大会（千葉県）開催（国体委員会）
- (7) 第70回国民体育大会（和歌山県）第1回中央競技団体正規視察（国体委員会）
- (8) 第25回テニス日本リーグの開催（実業団委員会）
- (9) 第24回全国実業団対抗テニストーナメント（A大会）の開催（実業団委員会）
- (10) 第49回全国実業団対抗テニス大会（ビジネスパル・テニス）の開催（実業団委員会）
- (11) 定例会議、日本リーグ関係会議他の開催（実業団委員会）
- (12) 第71回全日本ベテランテニス選手権大会の開催（ベテラン委員会）
- (13) 第34回全日本グラスコートベテラン選手権大会の主催及び運営協力（ベテラン委員会）
- (14) 47都道府県協会主催ベテランJ O PグレードE大会F G H大会の推進と運営協力（ベテラン委員会）
- (15) 日本スポーツマスターズ・テニス競技の運営と協力（ベテラン委員会）
- (16) 審判員派遣事業の開催（審判委員会）

3. テニスに関する国際競技会を開催し、又は国際競技会への代表者の選考及び派遣並びに外国からの選手等の招聘

- (1) 2010楽天ジャパンオープンチャンピオンシップの開催（ジャパンオープン委員会）
- (2) 国際大会の開催並びに支援、国際大会のよりよい運営の検討（トーナメント委員会）
- (3) 国際ベテラン大会への選手派遣（ベテラン委員会）

4. テニスに関する公認指導員及び審判員の養成並びに資格認定

- (1) 公認指導者養成事業及び検定会の開催と指導者の質の向上を目的とした研修会の開催。普及指導本部ホームページの充実と活用を図る。また都道府県代表委員のネットワークを構築、情報提供の活性を図るための準備を行った。(公認指導者養成委員会)
- (2) 養成講習会カリキュラム内容の充実を図る。養成講習会での講師の養成(公認指導者養成委員会)
- (3) 国際審判員、レフェリー養成事業並びに審判員、レフェリー養成事業の開催(審判委員会)
- (4) 審判員養成、拡大事業への開催(審判委員会)
- (5) 公認審判員管理登録事業の開催(審判委員会)

5. テニスの競技力向上

- (1) ナショナルメソッド地域伝達講習会の統括業務(ジュニア委員会)
- (2) 実業団チームとの合同練習会(学生強化委員会)
- (3) 国際大会へのコーチの派遣(学生強化委員会)
- (4) ナショナル代表チーム(Team Japan)の遠征(ナショナルチーム)
- (5) 国際総合競技大会(JOC関連事業)サポート体制の強化(ナショナルチーム)
- (6) ナショナル代表チーム・ナショナル代表候補およびナショナルメンバーのキャンプ(ナショナルチーム)
- (7) 国内外遠征へのサポートスタッフ派遣(ナショナルチーム)
- (8) 選手教育を主眼においた各種大会における教育プログラム活動(ナショナルチーム)
- (9) テクニカルスポーツサイエンスサポートスタッフの活用(ナショナルチーム)
- (10) 全国各地のコーチとのネットワーク構築(ナショナルチーム)
- (11) ジュニア大会を取り巻く環境の改善(ナショナルチーム)
- (12) ATF諸国との連携によるアジアテニスの振興(ナショナルチーム)
- (13) ワンコイン制度の積極的推進(ナショナルチーム)
- (14) クラブJTAの積極的推進(ナショナルチーム)
- (15) ナショナルチームをサポートするスポンサーの獲得(ナショナルチーム)
- (16) ナショナルチームスタッフとS級コーチの資質向上プログラムの推進(ナショナルチーム)
- (17) トレセン活動への積極的協力(ナショナルチーム)
- (18) 体カトレニングを主眼においた合宿の開催(ナショナルチーム)
- (19) 「強化指導指針III」の作成(ナショナルチーム)
- (20) ナショナル代表選手遠征事前のキャンプ(NTC運営委員会)
- (21) ナショナルジュニア強化合宿(NTC運営委員会)
- (22) 地域選手、指導者に対する合宿(NTC運営委員会)
- (23) NTCに集めた情報分析&発表(NTC運営委員会)
- (24) ワンコイン制度 NTC地域合宿(北海道、東北、関東、中国、四国)(NTC運営委員会)
- (25) 指導者育成講習会(NTC運営委員会)
- (26) 強化指導指針IIIの編纂事業(公認指導者養成委員会)
- (27) ジュニア大会のより発展と活性化に協力(トーナメント委員会)

6. テニスに関する競技規則及びアマチュア規定の制定並びにテニスランキングの作成

- (1) 暫定ランキングの管理運用(ジュニア委員会)
- (2) ジュニア大会機構における環境整備(ジュニア委員会)
- (3) ジュニア大会に関する事項(トーナメント委員会)

7. 日本テニス界を代表して、財団法人日本体育協会、財団法人日本オリンピック委員会、国際テニス連盟（略称 I. T. F.）及びアジアテニス連盟（略称 A. T. F.）に加盟すること

- (1) 国際テニス連盟及びアジアテニス連盟、日本オリンピック委員会他団体の会議出席、並びに行事への参加。海外各国協会、大会への協力活動、及び関係者への対応と情報伝達（国際委員会）
- (2) 海外国際大会への出席及び総合国際競技会への参加（国際委員会）
- (3) 国際団体会議・行事への出席（国際委員会）
- (4) 国際テニス連盟への連携事業（N T C 運営委員会）
- (5) 財団法人日本体育協会 国体委員会への出席（国体委員会）
- (6) 財団法人日本体育協会主催日本スポーツマスターズ委員会への出席（ベテラン委員会）

8. 年鑑その他の刊行物の発行

- (1) ルールブックの編集と発行事業（審判委員会）

9. テニスに関する用具及び施設の検定並びに公認

- (1) テニスに関する用具の認定、公認（総務委員会）

10. テニス施設の管理運営

- (1) NTC の運用管理と効果的な施設活用（N T C 運営委員会）

11. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

- (1) J T A 表彰（総務委員会）
- (2) J T A 特別表彰（総務委員会）
- (3) オリジナルコーチの表彰（総務委員会）
- (4) 選手報奨金の授与（総務委員会）
- (5) 諸規程の新設・改定（総務委員会）
- (6) 各種イベント後援申請等の審査（総務委員会）
- (7) 新公益法人制度の下での新法人への移行に向けた準備活動（公益法人化対策委員会）
- (8) JTA コミュニケーションとしての活動（広報委員会）
- (9) JTA 公式サイト専用のウェブサーバ構築（I T 委員会）
- (10) テニス史資料の収集・保存・活用、および展示・広報活動（テニスミュージアム委員会）
- (11) 会議の開催（ジュニア委員会）
- (12) 大学生テニス大会を取り巻く環境の改善（学生強化委員会）
- (13) ワンコイン制度の定着と発展（ワンコイン制度推進委員会）
- (14) クラブ J T A の新たな企画・運営の実行（クラブ J T A 委員会）
- (15) クラブ J T A 会員組織の拡大（クラブ J T A 委員会）
- (16) ドーピング検査の実施と協力（アンチ・ドーピング委員会）
- (17) アンチ・ドーピングの啓蒙（アンチ・ドーピング委員会）
- (18) サプリメントに関する指導方針の策定と徹底（アンチ・ドーピング委員会）
- (19) ドクター・トレーナーの派遣（ドクター・トレーナー部会）
- (20) テニス障害の対策（ドクター・トレーナー部会）
- (21) 選手の痙攣防止対策の立案・提言（ドクター・トレーナー部会）
- (22) スポーツビジョン（スポーツに必要な視覚能力）の啓蒙と普及（ドクター・トレーナー部会）
- (23) ドクター・トレーナー業務の充実（ドクター・トレーナー部会）
- (24) 地域メディカルサポート体制の整備（ドクター・トレーナー部会）
- (25) 大会の開催並びに支援、より良い運営の検討・サポート（ビーチテニス部会）
- (26) 会議の開催（ビーチテニス部会）
- (27) 国体委員会の開催（国体委員会）

- (28)他のスポーツ・諸外国テニス界の審判育成システムの調査事業の開催（審判委員会）
- (29)審判関連情報提供事業の開催（審判委員会）
- (30)47都道府県トレーニングセンター（ふるさとTC）設置に向けた活動（全国プロジェクト）
- (31)ワンコイン制度の定着と発展（全国プロジェクト）
- (32)国体テニス競技におけるテニスコートサーフェスの検討（全国プロジェクト）
- (33)倫理規程の浸透と啓蒙活動の実施ならびに倫理観の研究活動（倫理委員会）
- (34)倫理規程ならびに罰則規程の見直しと改定（倫理委員会）
- (35)J T Aの健全な財政体制確立と維持及び適正な会計処理を行う（財務管理委員会）
- (36)震災時の遠征選手の状況把握（危機管理委員会）
- (37)その他、JTA 専門委員会活動と事業

平成22年度事業計画に基づき、以下の委員会は専門委員会分掌事項に定められた業務を分担遂行した。

総務委員会、公益法人化対策委員会、広報委員会、I T委員会、テニスミュージアム委員会、ナショナルチーム、N T C運営委員会、ジュニア委員会、学生強化委員会、ワンコイン制度推進委員会、クラブJ T A委員会、公認指導者養成委員会、普及推進委員会、中体連対策委員会、スポーツ環境委員会、アンチ・ドーピング委員会、ジャパンオープン委員会、トーナメント委員会、国体委員会、ベテラン委員会、実業団委員会、審判委員会、全国プロジェクト、財務管理委員会、倫理委員会、危機管理委員会、国際委員会

以上

財団法人日本テニス協会 平成22年度 事業報告書

総務・財務本部（本部長：浅沼 道成）

総務委員会（委員長：秋田 修廣）

事業区分：9

事業名：テニスに関する用具の認定、公認

当該期間中に以下、公認、推薦申請（合計46社）を処理した。

- ① 公認：ボール7社12球
- ② 推薦：ラケット、ウェア、コート、シューズ、ネット、ストリング、ラインテープ、スポーツコンタクト、スポーツサングラス、低周波治療器、健康補助食品、計39社

事業区分：11

事業区分：JTA表彰

表彰規程に基づき表彰者の選定を行った。表彰者に対しては、平成22年5月28日（金）岸記念体育館1階スポーツマンクラブにおいて34件の表彰伝達式を行った。

- ① 功労賞：24名【明石康・野崎拓哉・倉光哲・高橋甫・橋爪功・クルム伊達公子・杉村潤・緒方壽人・菊池眞博・三村功・山元政明・福田加代子・本村陽一・中陳敏雄・福澤智・小泉弘子・佐原一二・青柳良延・村上交周・服部龍夫・北風博・三毛晴子・齋藤宣孝・安部計一】
- ② 優秀団体賞：1校【湘南工科大学附属高校】
- ③ 最優秀選手賞：2名【杉山愛・国枝慎吾】
- ④ 優秀審判賞：1名【鈴木崇史】
- ⑤ ジュニア大賞：1名【井上雅】
- ⑥ 企業賞：4社【グローブライド株式会社・大塚ターフテック株式会社・株式会社岩手ホテルアンドリゾート・有限会社ワイムズテニス企画】
- ⑦ メディア賞：1社【一般社団法人共同通信社】

事業区分：11

事業名：JTA特別表彰

表彰規程に基づく特別表彰対象者は該当がなかった。

事業区分：11

事業名：オリジナルコーチの表彰

表彰規程に基づくオリジナルコーチの表彰対象者は該当がなかった。

事業区分：11

事業名：選手報奨金の授与

選手報奨金規程に基づき表彰者の選定を行った。

年間表彰者：男子1名【添田豪】

女子2名【クルム伊達公子・森田あゆみ】

3名に対しては、平成22年11月1日（月）全日本選手権大会のレセプション会場の東京ベイ有明ワシントンホテルにおいて報奨金の授与を行った。

事業区分：11

事業名：諸規程の新設・改定

諸規程の改定を平成22年度中に6件行った。

- ① 改定：給与規程
- ② 新設：個人情報保護規程および関連4規程

事業区分：11

事業名：各種イベント後援申請の審査

年間16イベントの共催・後援・公認を審査し常務理事会・本部長会議に上程した。

- ① 共催：全日本学生テニス選手権大会
全日本大学対抗テニス王座決定試合
全日本学生室内テニス選手権大会
全国高等専門学校体育大会
第15回日韓スポーツ交流事業・成人交歓交流
第19回日・韓・中ジュニア交流競技会
2011年日中成人スポーツ交流事業
- ② 後援：第23回全国ショートテニストーナメント
第6回グラスホッパー全国ジュニアテニス in 佐賀
2010年第5回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・大阪
第23回関東車いすテニス大会
ねんりんピック2011熊本テニス交流大会
2010キッズ&ジュニアテニスカーニバル
第6回文部科学大臣杯マナーキッズ全国小学生団体戦
平成22年地域トレーニングセンター中国ジュニア冬季強化研修
第7回文部科学大臣杯マナーキッズ全国小学生団体戦
第24回全国ショートテニストーナメント
2011飯塚国際車いすテニス大会
- ③ 公認：三沢国際車いすテニス大会
2010Peace Cup 第21回国際交流車いすテニス大会
第16回国際車いすテニス大会' 仙台オープン2010'

以上

公益法人化対策委員会（委員長：高橋 甫）

事業区分：11

事業名：新公益法人制度の下での新法人への移行に向けた準備活動

公益法人化対策委員会は、平成21年4月に新公益法人制度の下での日本テニス協会の新法人への移行の準備を目的として発足した。発足2年目に当たる平成22年度においては、前年度に決議された「新しい法人形態への移行準備に関する基本方針」に基づき、平成24年4月からの新法人への移行を念頭に準備を進めた。具体的には、平成22年事業計画に基づき、以下の事業内容の活動を行ない、基本方針通り、平成23年8月の内閣府への移行認定申請に向けた準備が進められた。

事業内容：1. 地域・都府県協会、傘下団体、協力団体との間で日本テニス協会の新法人への移行に関する説明会・意見交換会の開催

平成22年5月8日に地域・都道府県テニス協会との説明会兼協議会を東京にて開催、新制度の概要を説明するとともに新制度の下での日本テニス協会の在るべき姿の合意形成のための意見交換がなされた。

また、同説明会兼協議会の場で行われた要望と質問に応える形で、新公益法人制度に対する日本テニス協会の対応方針についての説明文書を作成し、地域・都道府県協会に送付した。

さらに、地域テニス協会の要請に基づき、日本テニス協会の代表者が関東テニス協会、九州テニス協会、関西テニス協会、四国テニス協会を訪問し、個別的な協議の機会を持った。3 協力団体とは、9 月開催のテニス連合会の場で日本テニス協会の公益財団法人化についての説明を行い、その際、新法人とテニス協力団体との関係についての協議を行った。

傘下団体との間では、平成 22 年 11 月から本年 1 月にかけて全国学生テニス連盟、全日本学生庭球同好会連盟、全国高等学校体育連盟テニス部、全国高等専門学校体育協会テニス部、全国中学校テニス連盟の代表者との間で説明会を持った。

2. 公益目的事業の認定を念頭に入れた JTA 事業の仕分け実施

平成 21 年 6 月以降 4 度にわたり行われてきた内閣府公益認定等委員会事務局との協議結果を念頭に、日本テニス協会の全ての事業を定款案および内閣府の公益目的事業区分のチェックポイントに基づいて区分けの検討を行った。また、本年 8 月に予定される移行認定申請の具体的準備として、平成 23 年度収支予算及び事業計画が平成 23 年 3 月の理事会・評議員会で決議されたのを受け、移行認定申請書に基づいた事業概要説明の策定を開始した。

3. 日本テニス界のさらなる発展に寄与する JTA のあり方についての検討および「新法人の姿」の採択

平成 22 年 5 月開催の理事会・評議員会で決議された新基本方針に基づき、また地域・都道府県協会との協議結果を勘案しつつ新法人の姿の策定に当たった。9 月開催の臨時理事会にて日本テニス協会と地域・都道府県協会との関係の見直しと還付金・分担金制度の廃止を含む「新法人の姿」が採択された。

4. 「新法人の姿」をベースとして、新法人定款案および最初の評議員の選任方法・評議員選定委員会の設置素案の作成

平成 22 年 9 月開催の臨時理事会で採択された新法人の姿をベースに、同年 10 月に定款策定のための具体的作業が開始された。本委員会策定の定款素案は同年 10 月の常務理事会で了承され、同素案は地域・都道府県協会に送付された。同素案に対する地域・都道府県協会からの意見や内閣府公益認定等委員会事務局からの意見を念頭に定款素案の改訂版が策定され、平成 23 年 1 月開催の臨時理事会での審議に付された。臨時理事会での審議結果および内閣府公益認定等委員会事務局等からの意見を参考に定款案が策定され、同案は同年 3 月開催の理事会・評議員会にて全会一致で採択された。

新法人の最初の評議員の選任については、そのための手続きの一環として、平成 22 年 9 月に臨時理事会を開催し、「最初の評議員の選任方法に関する理事の定め」を採択した。同定めは、同年 11 月 12 日に文部科学大臣の認可を受けた。平成 23 年 1 月に開催された第 2 回臨時理事会は、同定めに基づき、最初の評議員選定委員会設置規則を採択し、併せて 5 名からなる最初の評議員選定委員会委員を選出した。3 月 24 日、同委員会は、3 月 17 日開催の理事会・評議員会でそれぞれ推薦された最初の評議員候補者の選定審議を行い、68 名の最初の評議員を選任した。

以上

広報委員会（委員長：八田 修孝）

事業区分：1 1

事業名：JTA コミュニケーションとしての活動

事業内容：下記に事業別に記載

1. ホームページによる JTA 情報発信

毎日 7 万強のアクセスがある JTA ホームページを、利用者がよりわかりやすく、便利でさらに興味の沸く、最新でニーズにあった情報を随時更新に務めた。トップページの「最新レポート」は専任の担当者を置き、その更新は 36 回に。月に平均すると 3 回。2007 年度より

立ち上げた【JTA OFFICIAL BLOG】は年間 180 回の更新。この他、4 大大会及び国別対抗戦、国内主要大会への記者派遣も含め、日本人選手の海外での活躍や、国内主要大会の報道にも積極的に行った。

2. 動画配信サイト「TENNIS ONLINE」の運用

国内開催の主要大会を映像に収めインターネットでの動画配信を行う TENNIS ONLINE。取材・編集などに経費が掛かるため課金方式を採用（月額¥420-）。今まで映像として見るのでできなかった全日本テニス選手権、日本リーグなど、国内大会の初回戦から、また一般愛好家が非常に興味のあるダブルスなどを配信すると共に、ナショナルチームの練習を紹介するといったレッスンコンテンツも視野に入れ制作、配信。全日本選手権でNHKのON AIRのない全試合（有明コロシアムのみ）を生中継で報道した。（平成 23 年 3 月末現在で会員数 52,000 人／無料会員を含む）。また、全日本ジュニア開催中のセンターコートの試合を生中継した。※「TENNIS ONLINE」は毎週 2～3 のコンテンツを更新（月／8～12 本）、配信予定は全テニス専門誌に掲載していただいている。

3. メールマガジンの発信

メールマガジン「テニスファン」を継続的に発信し、またデビスカップ、フェドカップ、全日本、JAPAN OPEN など主要大会では毎日速報を発信しテニスファンへのサービスを行った。年間配信回数、120 回。会員数 13,000 名（平成 23 年 3 月末現在）ライター陣の充実を心がけてはいるが、会員数の増大に向け、プロモーションの必要性を感じる。

4. メディアメールの発信

報道関係者（新聞、テレビ、ラジオ、テニス専門誌等々の媒体）に対しより効率の良い情報発信として、インターネットを利用したメディアメールをより頻度を上げて配信した。従来の記者発表や記者クラブ掲示に加え、より正確、敏速な情報発信が出来るようになった。年間配信回数、60 回。配信人数 105 名（平成 23 年 3 月末現在）。また昨年度より、常務理事会の決議事項をテニス専門誌を中心に「常務理事会報告メディアメール」として配信した。現状、常務理事会決議事項は、会の終了後、岸記念体育会館 3 階の「記者クラブ」にてアナウンスしているが、広報委員会としてはその内容を専門誌、フリーライターなどにも告知するべく行った。概ね好評であったと思う。

5. JTA NEWS の発行

JTA NEWS をアニュアルレポートとして 8 月に発行した。各役員、本部長、委員長などの事業計画、報告や前年度の収支決算などが報告されている。その内容はホームページにもアップされている。発行部数は 11,000 部で都道府県協会及び関連団体に配布され、広報誌としての役割を果たしている。

6. テニスプレーヤーズガイドの編集

東京運動記者クラブ・テニス分科会のご協力により編集。マスコミ、メディア向けのみならずイベントの企画運営を行うスタッフ一般愛好者むけのガイドブックとして、5 月発行に向けて編集中。（通常は 3 月に発行しているが人事などの変更を重視したため）

7. プログラム、ポスター、チラシ等の企画、発行

全日本、JAPAN OPEN 等の主要大会のプログラム、ポスター、チラシ等の企画・発行を広報委員会主体の作業として扱い、将来の一貫した JTA ポリシーを入れる企画、編集で作成した。

8. プレスルームの運営

全日本選手権、JAPAN OPEN、デビスカップ、などの主要大会のプレスルームの管理運営を行った。期間中は「ライブスコア」のコンテンツ部分のサポート。この他大会のデイリープログラム。メディアガイドも責任編集。また選手入場時のプロフィールを作成。ホームページのコンテンツ更新を含め、円滑な情報発信を行えるように努力した。

【総括】

広報委員会では今年度、上記項目を主な仕事として活動いたしました。中でも JTA ホームページ（動画サイト、ブログを含む）の質的な向上と維持管理が、一般テニス愛好家を含め、日本テニス協会関連各位への情報発信として最大のツールとの認識で、活動していますが、動的コンテンツでは完成型にはほど遠く、よりいっそうのボリュームアップが求められています。私たちは日本テニス界でリーダーシップを持てるサイト構築を念頭に置いて活動してゆくべく、より広範囲

に活動する努力を続けたいと思います。ATP や WTA ではコミュニケーションというセクションで活動していますが、我々広報委員会は、日本テニス協会（各本部、各委員会）から配信される多くの情報を、各地域・都道府県協会、選手、メディア、一般テニス愛好家の方々に様々な形で伝達すること、なかでも、日本テニス協会や日本選手とテニスファンとの間のパイプ役となることを最大のテーマとして活動します。

以上

IT 企画委員会（委員長：八田修孝）

事業区分：11

事業名：JTA 公式サイト専用のウェブサーバ構築

事業内容：インターネットでの JTA 発信の情報のニーズが年々高まりかつ多様化し、その責務に応じたウェブサーバの構築が今年も急務であった。

1. サーバの増強

全日本テニス選手権大会開催時にはレンタルサーバの転送限界を超え、今年も専用サーバ 4 台体制に変更し乗り越えることとなった（他にライブスコアサーバも 3 台体制）。その後は、国別対抗戦、ライブスコアに備えて常時 2 台体制で運用を続けている。現状日本国内に於いて地上波テレビで見ることのできない日本人選手の素顔や試合風景を見ることができる「JTA ビデオレポート」は好評であるため、動画配信能力を維持するためにもサーバ増強も進めたい。

2. サーバサポート・保守

JTA のサーバはサーバレンタル業者に月極でレンタルしている。レンタル費にはセキュリティ機能、アクセス分析機能のオプションが追加されている。

また、サーバのコンテンツのアップ、更新、システム保守を業者に委託している。レンタルサーバではサーバ業者はコンテンツの保守・維持を一切行わないため、Web とメールの両方で常時維持作業が必要になる。特殊な技術を必要とするため、外部委託が適当と判断している。業者への管理委託費用は現時点で特に支払わず、個別のコンテンツ更新依頼に含める形になっている。

3. ファイル共有サーバ運用

事務局内、委員会、多数の委員、ボランティアとの情報共有において、従来のメール、ディスクによるやりとりでは煩雑で混乱しやすく、なんらかの解決策を検討。個別のパソコンがウィルスや、ウィルスメール、不具合などでトラブルを起こすこともあり、個別のパソコンにだけ情報を保存することによる情報喪失の危険を回避する必要性もでてきている。更に、個人情報保護法の求める要件を満たすために、パソコンの利用、情報の利用に際して、ユーザ名とパスワードを求め、秘密を守ることを可能にする必要性も高い。これらの解決を図るために、「JTA 情報共有サーバ」を設置し、運用している。

以上

テニスミュージアム委員会（委員長：小田 晶子）

事業区分：11

事業名：テニス史資料の収集・保存・活用、および展示・広報活動

事業内容：史資料所在情報を確認し、収集・保全に努めるとともに、調査・研究そして歴史展示を行い、web 版テニスミュージアムを充実させた。また、将来の「JTA テニスミュージアム（仮称）」設立を目指して基金を運営し、中期 5 年計画を推進するとともに、有識者によるプロジェクト会議を開催して長期計画策定の準備を開始した。

1. 歴史的テニス資料の収集・保存、そして調査・公開

- (1) テニス史資料の収集・整理とデータベース化
 - ① JTA 地下倉庫、事務局収納棚、有明コロシアムなどに保管されている史資料の整理を継続した。
 - ② トランクルームの年間契約を継続し、収集したラケットなど物品資料、フィルムなど画像資料、書籍など文献資料を保管した。
 - ③ テニス専門誌バックナンバーの収集・整理を継続した。
 - ④ JTA 年表、テニス関連文献資料などのデータベース化を継続した。
 - ⑤ 「原田武一選手」のご遺族など関係者を訪問し、寄贈を受けることができた。
- (2) テニス史の調査・研究と公開
 - ① 「日本のテニスはじめて物語 II」をテーマに調査継続し、資料を作成した。
 - ② 有明クラブハウス内歴史展示コーナーに協力し、展示を充実させた。
 - ③ 「高校テニス 100 年」記念行事に協力し、資料を提供した。
 - ④ その他、各メディアからの問い合わせに対して調査・回答し、番組企画資料を提供した。
- (3) テニス文化振興のための広報活動
絵はがき、小冊子などミュージアム・グッズの販売を継続した。

2. ジャパンオープンなどで歴史展示開催および各方面との協力

- (1) ジャパンオープン 2010 大会期間中、有明コロシアム東ロビーで、企画展「日本のテニス はじめて物語 II」、特別展「杉山愛の軌跡」および「国枝慎吾の挑戦」を開催した。
- (2) 併せて、横浜山手・テニス発祥記念館やメーカー各社の協力を得て、史料ラケットやボールを展示した。
- (3) ジャパンオープン 2010 大会プログラムに「日本テニス はじめて物語」を掲載した。

3. JTA 公式ホームページ内 web 版テニスミュージアムの充実

- (1) 「web 版テニスミュージアム」サイトを大幅にリニューアル拡大し、「歴史の散歩道によるこそ」と題して、テニス史読み物を掲載した。
- (2) リニューアル拡大を広く PR し、国内外へのテニス史情報発信を強化した。

4. 「JTA テニスミュージアム（仮称）」設立に向けた基金の運営と将来計画

- (1) 「宮城黎子記念・JTA テニスミュージアム基金」第 2 年度の募金活動を継続した。
- (2) ニュースレター《テニス・ミュージアム》第 1 号を発刊し、会計報告および活動報告、広報を行った。
- (3) 中期 5 カ年計画を順次実行した。
- (4) プロジェクト会議を開催し、有識者の意見を集約した長期計画策定の準備をした。

以上

強化本部（本部長：福井 烈）

ナショナルチーム（ゼネラルマネージャー：竹内 映二）

事業区分：5

事業名：ナショナル代表チーム(Team Japan)の遠征

事業内容：①JOC関連

1. オリンピック（今年度は開催なし）
2. アジア大会（遠征期間：11月9日～23日、中国／広州）
チームリーダー：竹内 映二 監督（男子）：増田 健太郎
監督（女子）：村上 武資 トレーナー：村木 良博／中尾 公一
総務：田島 孝彦
選手（男子）：添田 豪／伊藤 竜馬／鈴木 貴男／近藤 大生
松井 俊英
選手（女子）：クルム伊達 公子／森田 あゆみ／土居 美咲
瀬間 友里加／不田 涼子
結果：男子団体（添田／伊藤／鈴木／松井）…銅メダル
女子団体：（クルム伊達／森田／土居／不田）…銅メダル
男子シングルス：添田…銅メダル／伊藤…銅メダル
女子シングルス：クルム伊達…銅メダル／森田…ベスト8
男子ダブルス：近藤・添田…2R／鈴木・松井…1R
女子ダブルス：森田・クルム伊達…ベスト8／土居・不田…2R
混合ダブルス：近藤・瀬間…銅メダル／鈴木・土居…ベスト8
(w／牟田口)
3. 東アジア大会（今年度開催なし）
4. ユニバーシアード（今年度開催なし）
5. ユースオリンピック（遠征期間：8月12日～27日、シンガポール）
監督：駒田 政史 選手：内山 靖崇／石津 幸恵／牟田口 恵美
結果：内山…シングルス1R・コンソレ1R、ダブルス1R（w／Huang(TPE)）
石津…シングルス1R・コンソレ優勝、ダブルスベスト8
(w／牟田口)
牟田口…シングルス1回戦・コンソレベスト4、
ダブルスベスト8（w／石津）

②デ杯関連（A代表）

1. 2010年 デ杯 アジアオセアニアグループI 2R（対オーストラリア戦）
（遠征期間：5月2日～5月10日）
監督：竹内 映二 コーチ：増田 健太郎 ドクター：奥平 修三 ト
レーナー：中尾 公一 ストリンガー：富岡 信人
マネージャー：田島 孝彦
選手：添田 豪／杉田 祐一／伊藤 竜馬／鈴木 貴男
結果：0-5で敗退、アジアオセアニアグループI残留が決定
2. 2011年 デ杯 アジアオセアニアグループI 1R（対フィリピン戦）
（遠征期間：2月26日～3月6日）
監督：竹内 映二 コーチ：増田 健太郎 ドクター：奥平 修三 ト
レーナー：中尾 公一 ストリンガー：富岡 信人
マネージャー：田島 孝彦
選手：添田 豪／伊藤 竜馬／鈴木 貴男／近藤 大生
結果：3-1で勝利、アジアオセアニアグループI 2R進出が決定

③フェド杯関連（A代表）

1. 2010年 フェド杯 ワールドグループIIプレーオフ（対スロベニア戦）
（遠征期間：4月22日～27日）

監督：村上 武資 トレーナー：村木 良博
ストリンガー：富岡 信人 マネージャー：田島 孝彦
選手：クム伊達 公子／森田 あゆみ／瀬間 友里加／藤原 里華
結果：1-4 で敗退、アジアオセアニアグループ I 残留が決定

2. 2011年 フェド杯 アジアオセアニアグループ I

監督：村上 武資 コーチ：原田 夏希／谷澤 英彦
ドクター：三谷 玄弥 トレーナー：村木 良博／池田 明子
ストリンガー：富岡 信人 マネージャー：田島 孝彦
情報戦略：池田 亮
選手：森田 あゆみ／波形 純理／土居 美咲／藤原 里華
結果：2年連続となる優勝で、ワールドグループ II プレーオフ進出が決定

④U18 関連

1. ジュニアグランプリスラム遠征

- ・全仏オープンジュニア遠征 (5月13日～6月7日)

コーチ：駒田 政史

選手：内山 靖崇／大前 綾希子／牟田口 恵美／尾崎 里紗

結果：51st Trofeo Bonfiglio (イタリア GA、5/17～23)

内 山…シングルス 2R、ダブルス 1R (w/Clezar (BRA))

大 前…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/牟田口)

牟田口…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/大前)

尾 崎…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/De Bernardi (FRA))

Astrid Bowl Charleroi (ベルギーG1、5/24～29)

内 山…シングルス 2R、ダブルスベスト 4 (w/Clezar (BRA))

牟田口…シングルス 2R、ダブルスベスト 8

(w/KumKhum (THA))

尾 崎…シングルス 1R

Roland Garros Jr Championships (フランス GA、5/30～6/6)

内 山…シングルス 3R、ダブルス 1R (w/McLachlan (NZL))

大 前…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/Min (USA))

牟田口…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/尾崎)

尾 崎…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/牟田口)

- ・ウィンブルドンジュニア遠征 (6月17日～7月5日)

コーチ：駒田 政史

選手：内山 靖崇／牟田口 恵美／尾崎 里紗／大前 綾希子

結果：AEGON Jr Int' 1 - Roehampton (イギリス G1、6/20～25)

内山…シングルス 1R、ダブルス優勝 (w/Gomez (COL))

牟田口…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/Grage (DEN))

尾崎…シングルス 2R、ダブルス 2R (w/大前)

大前…シングルス 2R、ダブルス 2R (w/尾崎)

The Jr Championships, Wimbledon (イギリス GA、6/26～7/4)

内山…シングルス 1R、ダブルスベスト 8 (w/Gomez (COL))

牟田口…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/Grage (DEN))

尾崎…シングルス 1R

大前…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/石津)

- ・全米オープンジュニア遠征① (8月26日～9月13日)

コーチ：中山 芳徳 選手：小和瀬 望帆／穂積 絵莉

結果：Canadian Open Junior Championships (カナダ G1、8/29～9/4)

小和瀬…シングルス 3回戦、ダブルスベスト 8 (w/加藤)

穂積…シングルス 2回戦、ダブルスベスト 8 (w/尾崎)

US Open Junior Championships (米国 GA、9/5～12)

小和瀬…シングルス 1回戦、ダブルス 1回戦 (w/穂積)

- 穂積…シングルス 2 回戦、ダブルス 1 回戦 (w/小和瀬)
- ・全米オープンジュニア遠征② (9 月 2 日～9 月 13 日)
 - コーチ：増田 健太郎 選手：内山 靖崇/牟田口 恵美
 - 結果：US Open Junior Championships (米国 GA、9/5～12)
 - 内山…シングルス 3 回戦、ダブルス 1 回戦 (w/Gomez(COL))
 - 牟田口…シングルス 2 回戦、ダブルス 2 回戦 (w/尾崎)
 - ・全豪オープンジュニア遠征
 - 日程：(男子) 1 月 7 日～25 日 (女子) 1 月 11 日～30 日
 - コーチ：(男子) 渡辺 大輔 (S 級エリートコーチ)
 - (女子) 駒田 政史/中山 芳徳
 - 選手：(男子) 内田 海智/河内 一真/守谷 総一郎
 - (女子) 小和瀬 望帆/加藤 未唯/穂積 絵莉/二宮 真琴
 - 牟田口 恵美/尾崎 里紗
 - 結果：Loy Yang Traralgon Int' (オーストラリア G1、1/14～19)
 - 内田…シングルス 1 回戦、ダブルス 1 回戦 (w/岸僚太)
 - 河内…シングルス予選 2 回戦
 - 守谷…シングルス予選 3 回戦
 - 小和瀬…シングルスベスト 8、ダブルスベスト 4 (w/尾崎)
 - 加藤…シングルス 1 回戦、ダブルスベスト 8 (w/穂積)
 - 穂積…シングルス 1 回戦、ダブルスベスト 8 (w/加藤)
 - 二宮…シングルス 2 回戦、ダブルスベスト 8 (w/牟田口)
 - 牟田口…シングルス 1 回戦、ダブルスベスト 8 (w/二宮)
 - 尾崎…シングルス 1 回戦、ダブルスベスト 4 (w/小和瀬)
 - Australian Open Jr Champs (オーストラリア GA、1/23～29)
 - 内田…シングルス予選 3R
 - 河内…シングルス予選 3R
 - 守谷…シングルス予選 3R
 - 小和瀬…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/尾崎)
 - 加藤…シングルス 1R、ダブルス準優勝 (w/穂積)
 - 穂積…シングルス 2R、ダブルス準優勝 (w/加藤)
 - 二宮…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/牟田口)
 - 牟田口…シングルス 3R、ダブルス 1R (w/二宮)
 - 尾崎…シングルス 2R、ダブルス 1R (w/小和瀬)
 - 2. アジア春季遠征 (3 月 4 日～28 日)
 - コーチ：駒田 政史/谷澤 英彦 (JOC 視察)
 - 選手：穂積 絵莉/加藤 未唯/尾崎 里紗
 - 結果：Chang LTAT ITF Junior Championships (タイ G1、3/7～12)
 - 穂積…シングルス 3R、ダブルス優勝 (w/加藤)
 - 加藤…シングルス 3R、ダブルス優勝 (w/穂積)
 - 尾崎…シングルス 3R、ダブルス準優勝 (w/澤柳璃子)
 - 17th Sarawak Chief Minister's Cup (マレーシア G1、3-15～20)
 - 穂積…シングルス 2R、ダブルス 2R (w/加藤)
 - 加藤…シングルスベスト 4、ダブルス 2R (w/穂積)
 - 尾崎…シングルスベスト 8、ダブルス 1R (w/日比野菜緒)
 - 22nd Mitsubishi-Lancer Int' 1 (フィリピン G1、3/22～27)
 - 穂積…シングルス 2R、ダブルス 2R (w/加藤)
 - 加藤…シングルスベスト 8、ダブルス 2R (w/穂積)
 - 尾崎…シングルスベスト 8、ダブルス優勝 (w/日比野菜緒)
 - 3. アジア秋季遠征
 - U16 にて実施
 - 4. アジアジュニア選手権遠征

実施せず

⑤U16 関連

1. Jr デ杯アジアオセアニア予選遠征 (4月14日～25日)
監督：岩本 功 選手：守谷 総一郎／内田 海智／河内 一真
結果：16ヶ国中1位で優勝、決勝大会進出が決定
2. Jr フェド杯アジアオセアニア予選遠征 (4月24日～5月3日)
監督：駒田 政史 選手：尾崎 里紗／加藤 未唯／小和瀬 望帆
結果：16ヶ国中1位で優勝、決勝大会進出が決定
3. Jr デ杯・フェド杯世界大会遠征 (9月22日～10月5日)
監督：(男子) 岩本 功／(女子) 駒田 政史
選手：(男子) 内田 海智／守谷 総一郎／河内 一真
(女子) 小和瀬 望帆／穂積 絵莉／尾崎 里紗
結果：(男子) 16か国中優勝、国別対抗戦での優勝は日本テニス史上初
(女子) 16か国中13位
4. トヨタ Jr 遠征 (10月23日～11月7日)
コーチ：中山 芳徳
選手：河内 一真／守谷 総一郎／二宮 真琴／小和瀬 望帆
結果：LTAT-International Jr Championships (タイ G2、10/25～30)
河内…シングルスベスト4、ダブルス2R (w／守谷)
守谷…シングルス1R、ダブルス2R (w／河内)
二宮…シングルス3R、ダブルス準優勝 (w／澤柳)
Seogwipo Asian/Oceania Closed Champs (韓国 B1、11/2～7)
河内…シングルス2R、ダブルスベスト8 (w／内田)
二宮…シングルス準優勝、ダブルスベスト8 (w／澤柳)
小和瀬…シングルス2R、ダブルス優勝 (w／尾崎)
5. 南米遠征 (2月16日～3月28日)
コーチ：岩本 功／中山 芳徳
選手：内田 海智／河内 一真／小和瀬望帆／二宮 真琴
結果：Argentina Cup (アルゼンチン G2、2/21～27)
内田…シングルスベスト8、ダブルスベスト4 (w／河内)
河内…シングルス3R、ダブルスベスト4 (w／内田)
小和瀬…シングルス3R、ダブルスベスト8 (w／二宮)
二宮…シングルスベスト8、ダブルスベスト8 (w／小和瀬)
Uruguay Bowl (ウルグアイ G2、2/28～3/6)
内田…シングルス準優勝、ダブルス2R (w／河内)
河内…シングルス1R、ダブルス2R (w／内田)
小和瀬…シングルス1R、ダブルス優勝 (w／二宮)
二宮…シングルスベスト8、ダブルス優勝 (w／小和瀬)
31st Asuncion Bowl (パラグアイ G1、3/7～12)
内田…シングルスベスト8、ダブルスベスト4 (w／河内)
河内…シングルス2R、ダブルスベスト4 (w／内田)
小和瀬…シングルス2R、ダブルス準優勝 (w／二宮)
二宮…シングルス2R、ダブルス準優勝 (w／小和瀬)
Banana Bowl (ブラジル G1、3/14～20)
内田…シングルス2R、ダブルスベスト8 (w／Nunez (MEX))
小和瀬…シングルス2R、ダブルス準優勝 (w／二宮)
二宮…シングルス1R、ダブルス準優勝 (w／小和瀬)
Copa Gerdau (ブラジル GA、3/21～27)
内田…シングルス1R、ダブルス優勝 (w／Nunez (MEX))
小和瀬…シングルス2R、ダブルスベスト4 (w／二宮)
二宮…シングルス2R、ダブルスベスト4 (w／小和瀬)

6. U16 イタリア遠征 (5月19日～6月8日)
 コーチ：舌 隆史 (S級コーチ) 選手：西岡 良仁／斉藤 貴史
 結果：Int' l Tournament Citta Di Foligno (イタリア ETA、5/24～30)
 西岡…シングルス優勝、ダブルス優勝 (w/斉藤)
 斉藤…シングルス準優勝、ダブルス優勝 (w/西岡)
- 7 Citta Di Montecatini (イタリア ETA、5/31～6/6)
 西岡…シングルス 2R、ダブルスベスト 8 (w/斉藤)
 斉藤…シングルス 2R、ダブルスベスト 8 (w/西岡)
7. U16 オランダ遠征 (6月30日～7月20日)
 コーチ：岩本 功
 選手：守谷 総一郎／内田 海智／河内 一真／西岡 良仁
 結果：Leeuwenbergh ITF 4 Jr Championships (オランダ G4、7/6～11)
 守谷…シングルス 3R、ダブルス準優勝 (w/西岡)
 内田…シングルスベスト 8、ダブルス優勝 (w/河内)
 河内…シングルス 3R、ダブルス優勝 (w/内田)
 西岡…シングルス準優勝、ダブルス準優勝 (w/守谷)
- Flower Bulb Tournament (オランダ G4、7/13～18)
 守谷…シングルスベスト 4、ダブルス優勝 (w/河内)
 内田…シングルス優勝、ダブルス 2R (w/西岡)
 河内…シングルスベスト 4、ダブルス優勝 (w/守谷)
 西岡…シングルス 3R、ダブルス 2R (w/内田)
8. U16 タイ・韓国遠征 (10月23日～11月7日)
 コーチ：岩本 功 選手：内田 海智／尾崎 里紗
 結果：LTAT-International Jr Championships (タイ G2、10/25～30)
 内田…シングルス 1R、ダブルス優勝 (w/Proskura (EST))
 尾崎…シングルスベスト 8、ダブルス 2R (w/Sankaew (THA))
- Seogwipo Asian/Oceania Closed Champs (韓国 B1、11/2～7)
 内田…シングルス 3R、ダブルスベスト 8 (w/河内)
 尾崎…シングルス 3R、ダブルス優勝 (w/小和瀬)
9. U16 タイ遠征 (11月14日～25日)
 コーチ：櫻井 準人 選手：斉藤 貴史／沼尻 啓介
 内容：ATF High Performance Evaluation Camps (タイ) に参加
10. U16 ニュージーランド遠征 (1月20日～2月13日)
 コーチ：岩本 功 選手：斉藤 貴史／沼尻 啓介／大西 賢
 結果：Sunsmart 18/U Canterbury Championships
 (ニュージーランド G4、1/24～29)
 斉藤…シングルス優勝、ダブルスベスト 8 (w/沼尻)
 沼尻…シングルスベスト 8、ダブルスベスト 8 (w/斉藤)
 大西…シングルス準優勝、ダブルス準優勝 (w/Norrie (NZL))
- Auckland 18/U ITF Summer Championships
 (ニュージーランド G3、1/31～2/5)
 斉藤…シングルスベスト 8、ダブルスベスト 8 (w/沼尻)
 沼尻…シングルス 1R、ダブルスベスト 8 (w/斉藤)
 大西…シングルス 2R、ダブルスベスト 8 (w/Norrie (NZL))
- 2011 Tennis Central 18/U ITF Summer Championships
 (ニュージーランド G4、2/7～12)
 斉藤…シングルスベスト 8、ダブルスベスト 8 (w/沼尻)
 沼尻…シングルス準優勝、ダブルスベスト 8 (w/斉藤)
 大西…シングルスベスト 8、ダブルス 1R (w/Norrie (NZL))

⑥U14 関連

1. ワールド Jr 男子 アジアオセアニア予選遠征 (4月29日～5月9日)

- 監督：櫻井 準人 選手：大西 賢／中川 直樹／山崎 純平
結果：3位タイで決勝大会に進出
2. ワールド Jr 女子 アジアオセアニア予選遠征 (5月6日～16日)
監督：中山 芳徳 選手：足立 真美／江見 優生乃／渡辺 仁美
結果：4位で決勝大会に進出
3. ヤングスター遠征／4. ワールド Jr 世界大会遠征
(7月8日(男子)／16日(女子)～8月9日)
コーチ：(男子) 櫻井 準人／(女子) 中山 芳徳
選手：(男子) 大西 賢／中川 直樹／恒松 拓未
(女子) 足立 真美／江見 優生乃／渡辺 仁美
結果：Windmill Cup Carl Gantois (オランダ ETA、7/12～18)
大西…シングルスベスト8、ダブルスベスト4 (w/恒松)
中川…シングルス3R、ダブルス2R (w/Ugarte(CHI))
恒松…シングルス3R、ダブルスベスト4 (w/大西)
Le 13/14 Des Hauts-de-Seine (フランス ETA、7/19～24)
大西…シングルス2R、ダブルスベスト4 (w/中川)
中川…シングルス3R、ダブルスベスト4 (w/大西)
恒松…シングルス2R、ダブルス準優勝 (w/Ugarte(CHI))
足立…シングルス優勝、ダブルス優勝 (w/Chinsakchai(THA))
江見…シングルス1R・コンソレ1R、ダブルス2R (w/渡辺)
渡辺…シングルス1R・コンソレ2R、ダブルス2R (w/江見)
33. Internationale Deutsche Tennismeisterschaft
(ドイツ ETA、7/26～31)
足立…シングルス1R・コンソレ優勝、ダブルス準優勝
(w/Chinsakchai(THA))
江見…シングルス1R・コンソレベスト4、ダブルスベスト4
(w/Gariglio(ITA))
渡辺…シングルス1R・コンソレベスト8、ダブルス1R
(w/Winkler(GER))
- World Junior Tennis Finals (チェコ、8/2～7)
男子…16か国中10位
女子…16か国中11位
5. ATF 遠征 (韓国・インドネシアを予定)
実施せず
6. 冬季ヨーロッパ遠征 (詳細未定)
実施せず
7. U13 フランス遠征 (7月16日～8月2日)
コーチ：右近 憲三 選手：山崎 純平／高橋 悠介
結果：Balle Mimosa Loire-Atlantique (フランス、7/17～24)
山崎…シングルス優勝、ダブルス優勝 (w/高橋)
高橋…シングルスベスト8、ダブルス優勝 (w/山崎)
Les Petits Princes (フランス、7/27～31)
山崎…シングルス準優勝、ダブルス優勝 (w/高橋)
高橋…シングルス優勝、ダブルス優勝 (w/山崎)
8. U12 カナダ遠征 (8月14日～24日)
コーチ：右近 憲三
選手：山中 恭兵／大島 立暉／村松 千裕／臼井 沙耶
結果：La Coupe Le Blanc (カナダ、8/16～22)
山中…シングルス4位、ダブルス1回戦 (w/大島)
大島…シングルス5位、ダブルス1回戦 (w/山中)
村松…シングルス4位、ダブルス1回戦 (w/臼井)

臼井…シングルス 5 位、ダブルス 1 回戦 (w/村松)

事業区分：5

事業名：テクニカルサイエンスサポートスタッフの活用

事業内容：コンディショニングチェックを開発し、代表チーム・ジュニア代表チームに対して合宿時に全対象選手に実施した。結果を即時フィードバックしプログラム作成時に資料として参考にした。

また、In-Pact や In-Pact for Decision Maker を情報戦略から発行し、情報の共有化を図った。

事業区分：5

事業名：国際総合競技大会（JOC 関連事業）サポート体制の強化

事業内容：事業報告：ロンドン五輪出場、メダル獲得を目指して情報戦略・ストレングスコーチ・アスレティックトレーナー・ドクターらが中心になりパフォーマンス向上を目的にナショナルコーチ・代表選手らと情報を共有した。また、リオ五輪金メダル獲得を目指した G-Project 事業がスタートした。

事業区分：5

事業名：ナショナル代表チーム・ナショナル代表候補およびナショナルメンバーのキャンプ

事業内容：G-Project・デ杯・フェド杯・ユニバーシアード・ジュニアの各年代で事前合宿を実施した。重点強化として教育プログラムに主眼を置き、JOC の協力を得てチームビルディング講習・アンチドーピングコントロールの啓蒙講習などを行った。また体力強化に積極的に取り組み、徐々にではあるが成果を表している。

事業区分：5

事業名：国内外遠征へのサポートスタッフ派遣

事業内容：国内合宿におけるストレングスコーチ・アスレティックトレーナー・情報戦略の派遣を行った。デ杯・フェド杯ではドクターの派遣を行いサポート体制を強化したことにより、身体機能が低下した状況からの勝利に大きく貢献した。

事業区分：5

事業名：ジュニア選手教育を主眼においた各大会における教育プログラム活動

事業内容：トヨタジュニア、全国選抜ジュニア、RSK 全国選抜ジュニア、U-15 全国選抜ジュニア等において講義などの教育プログラムを実施した。

事業区分：5

事業名：全国各地のコーチとのネットワーク構築

事業内容：ナショナルメソッド地域伝達講習会において、ナショナルコーチの派遣を 2 名に絞り込み、情報共有、共通理解を得てより深い連携を取ることを狙った。また、S 級エリートコーチをブロック合宿に派遣し、市町村レベルまで有効な情報が届くことを狙った。

事業区分：5

事業名：ATF 諸国との連携によるアジアテニスの振興

事業内容：ATF 男子若手選手強化キャンプにナショナルコーチと選手 2 名が参加した。ATF としても初めての取り組みであり、アジア関連諸国との連携・情報の共有を図りながら選手強化にも取り組んだ。

事業区分：5

事業名：ワンコイン制度の積極的推進

事業内容：ワンコイン制度還元事業の一環として、味の素ナショナルトレーニングセンターにて地域合同合宿を開催し、ナショナルコーチによる技術的戦略・身体的能力向上を目的

とした練習会を行った（7地域が参加）。また、ナショナルメソッド地域伝達講習会（9地域）を行い、ワンコイン制度協力のお礼と意義を理解していただく為の説明を行うとともに、メソッドの共有化を図った。

事業区分：5

事業名：クラブ JTA の積極的推進

事業内容：ナショナルメソッド地域伝達合宿の際に感謝のお礼とクラブ JTA 入会の勧誘を行った。また、今回初の開催となった「クラブ JTA 祭り」に協力し、成功裡に収めた。

事業区分：5

事業名：ナショナルチームをサポートするスポンサーの獲得

事業内容：獲得には至っていないが、継続して獲得を目指す。

事業区分：5

事業名：ナショナルチームスタッフと S 級コーチの資質向上プログラムの推進

事業内容：ブロック合宿のプログラム作成において、ナショナルチームスタッフと S 級エリートコーチ参加代表者が集いプログラムの共有を図ると共に、スキルアップの為の勉強会を行った。

事業区分：5

事業名：トレセン活動への積極的協力

事業内容：兵庫県トレセン、愛媛県トレセンに対してナショナルコーチの派遣及び技術的な情報提供及び共通理解を得るために活動を行った。今後西日本トレセンを中心に活動を広げ、推進していきたい。

事業区分：5

事業名：体力トレーニングを主眼においた合宿の開催

事業内容：G-Project 合宿、ジュニア合宿においてストレングスコーチ及びアスレティックトレーナーから講義および実技指導を通年で実施した。

事業区分：5

事業名：「強化指導指針 III」の作成

事業内容：2011 年 4 月に完成。競技者育成プログラム事業として更に推進していく。

以上

NTC 運営委員会（委員長：櫻井 準人）

1. 事業区分：10

(1) NTC の運営管理と効果的な施設活用

① 屋内テニスコート 稼働率 90%（4月13日現在暫定）

＊11月のアジア大会時に、22日間のハードコート修復作業

② JISS との連携（病院、リハビリ利用）、タレント発掘事業への協力

屋内レッドクレイコートを活用

③ JOC タレント発掘事業、北区教育庁事業、JOC コントロールテスト 協力

2. 事業区分：5

(1) ナショナル代表選手遠征事前のキャンプ

① フェドカップ合宿（平成 22 年 4 月 12～16 日）対 スロベニア

② デビスカップ 1 回戦事前合宿（平成 22 年 4 月 26～5 月 1 日）対 オーストラリア

③ ワールドジュニア男子アジア予選直前合宿（4月26～28日） 3位

- ④ U14 ヨーロッパ遠征&世界大会事前合宿 世界大会男子 10 位&女子 11 位
 - ⑤ U16 ジュニアデビスカップ世界大会 優勝
 - ⑥ 平成 23 年フェドカップグループ I アジア予選事前合宿 1 位
 - ⑦ 南米遠征事前合宿
 - ⑧ 平成 23 年デビスカップ 1 回戦事前合宿 (2 月 21~25 日) 対 フィリピン
3. 事業区分：5
- (1) ナショナルジュニア強化合宿 男子&女子 年間 16 回の合宿
 - (2) ユニバーシアード体力測定合宿
 - (3) 修造チャレンジトップジュニアキャンプ 3 月 8~11 日
 - (4) G-プロジェクト合宿
4. 事業区分：5
- (1) 地域選手、指導者に対しての合宿 (ナショナルメソッド地域伝達合宿)
 - ① 九州 9 月 10~12 日
 - ② 中国 9 月 18~20 日
 - ③ 東北 9 月 24~26 日
 - ④ 関西 10 月 30~31 日
 - ⑤ 北信越 11 月 26~28 日
 - ⑥ 東海 12 月 17~19 日
 - ⑦ 関東 1 月 8~10 日
 - ⑧ 四国 1 月 8~10 日
 - ⑨ 北海道 2 月 11~13 日
5. 事業区分：5
- (1) NTC に集めた情報分析&発表
 - (2) S 級レベルアップ講習会 2 月 17~18 日
JTA カンファレンス 2 月 19~20 日
6. 事業区分：5
- (1) ワンコイン制度 NTC 地域合宿 北海道、東北、関東、中国、四国の参加
6 月 26~27 日 12 歳以下
7. 事業区分：5
- (1) 指導者育成講習会
 - 公認スポーツ指導者講師全国研修会 9 月 6~7 日
 - 公認コーチ 12 月 1~3 日、1 月 11~13 日
 - 公認教師 11 月 8 日~10 日、1 月 18 日~20 日
 - 上級指導員 12 月 10 日~12 日
 - 認定校 1 月 31 日~2 月 1 日
8. 事業区分：7
- (ア) 国際テニス連盟への連携事業
 - ITF Coach Commission 会議の出席 パリ 5 月 櫻井
 - アジアコーチファレンス (フィリピン) への参加 11 月 櫻井
 - アジア U13~U16 強化ジュニアキャンプ (タイ) 11 月 櫻井
 - Play&Stay の普及協力 2 月 20 日 NTC

以上

ジュニア委員会 (委員長 井上喜代志)

事業区分：1

事業名：中学校、高等学校指導者及び選手に対する支援事業の策定

事業内容：JTA の大きな課題である日本中体連加盟推進運動が功を奏し始めており、中体連対

策委員会と連携し、未加盟の各道県における側面からの支援活動を推奨した。今年度九州、四国地域中体連への加盟が実現した。中体連対策委員会からの情報は詳細に全国のジュニア委員会ルートを通して配信し、現場での先生方との連携作業の改善、推進を図った。

事業区分：1

事業名：ナショナルトップコーチブロック派遣ジュニア及び指導者講習会（調整業務：継続）

事業内容：都道府県テニス協会の要請により、ナショナルチーム、普及本部と連携し、ナショナルチームと連携したエリア担当のトップコーチを派遣し、ジュニアを対象とした指導者講習会を開催した。なお、今年度からS級エリートコーチの希望者を対象として味の素NTCにてナショナルとの共同で伝達内容についての講習を経て派遣された。

地域	場所	期間	対象	人数	テクニカル	S&C
北海道	旭川	1月13日～15日	U12～U17 男女	11人	小浦武志	林本 悠
東北	岩手	2月11日～12日	小、中学生 男女	32人	吉田将彦	飯田琢郎
北信越	富山	2月11日～13日	小、中学生 男女	20名	丸山弘道	平岡珠美
東海	静岡	11月20日～21日	U13 男女	24名	神谷 勝則	中村寛孝
東海	岐阜	8月1日	小、中学生 男女	32名	駒田政史	中村寛孝
中国	山口	12月12日～13日	小 中 高 男女	32名	村上 功	植木五行
中国	島根	1月9日～10日	U12, U14 男女	16名	五藤健介	植木五行

事業区分：1

全国プロジェクトが推進するブロックトレセン構想での推進策への協力

事業内容：前年度実施した各都道府県での実態調査を全国プロジェクトに渡して、今後の参考資料としていただく。ナショナルチームもふるさとトレセンの活動支援に動くとの報告を受けた。今後も横軸を密にして都道府県の活性化につながるJTAの根幹政策の推進支援にあたる。

事業区分：1

事業名：JTAホームページを利用した広報事業

事業内容：ナショナルメソッド地域伝達合宿やブロック合宿を通して、全国の指導者に対して、その指導理念と共にナショナルチームが示した指導プログラムの内容を報告書として紹介した。JTAのトップページ/普及指導/地域の活動（都道府県の活動）に掲載。JTAと地域、都府県の指導者間とでゴールデンエイジ期における指導に関する相互理解を今後も継続して深めたい。

事業区分：1

事業名：ブロックステージでの発掘、育成フィールド構築（推進事業）

事業内容：P&Sとtennis10sの指導者レベルでの普及活動とは別に、ジュニア委員会ルートでの協会事業としての普及、実践活動の在り方について現状把握を目的としたアンケートを実施。その結果を普及指導本部に提供し、カンファレンスで公表された。JTAの目標であるテニス人口1000万人達成に向かっての第一歩とし、このプログラムの現場である都道府県でのテニス人口の増大策につなげる。用具メーカーも準備ができる次年度以降、具体的な実施方法、支援対策などを普及本部と連携し、都道府県に提案してゆく。10歳以下の大会については、2012年度以降ITFルール（tennis10s）を順守するよう回答御礼と共にジュニア委員会ルートで通知した。

事業区分：5

事業名：ナショナルメソッド地域伝達講習会の統括業務

事業内容：今年度は味の素NTCを代表して、右近副本部長、竹内ナショナルGMも地域に出張し、指導者や地域トップとの情報交換を図られた。また地域合宿の方向性やワンコインの御礼、クラブJTAの紹介など行われた。今年度は、昨年に続きコーディネーションの具体的理解と実践についての開発指導法とテクニカル面では特にダブルスの戦術指導について講習が行われた。またアンチ・ドーピングなどについてのレクチャーも行われた。

地域	場所	期間	対象	指導者	テクニカル	S&C
北海道	夕張市	2月11日～2月13日	U12 19名	5名	櫻井準人	植木五行
東北	酒田市	9月24日～9月26日	U12 12名	9名	右近憲三 櫻井準人	山本修嗣
北信越	坂井市	11月26日～11月28日	U12 12名	37名	右近憲三 駒田政史	林本 悠
関東	白子町	1月8日～1月10日	U12 32名	14名	右近憲三 櫻井準人	林本 悠
東海	岐阜市	12月17日～12月19日	U12 16名	9名	右近憲三 駒田政史	植木五行
関西	加西市	10月30日～10月31日	U12 36名	10名	右近憲三 駒田政史	北村珠美
中国	尾道市	9月18日～9月20日	U12 16名	20名	右近憲三 中山芳徳	山本修嗣
四国	伊予市	1月8日～1月10日	U12 16名	4名	竹内映二 駒田政史	横山正吾
九州	福岡市	9月10日～9月12日	U12 16名	18名	右近憲三 駒田政史	横山正吾

事業区分：6

事業名：暫定ランキングの管理運用

事業内容：1. 全国大会と地域ジュニアテニス選手権大会を対象大会とした暫定ランキングを今年度も実施。ナショナルジュニアランキングが運用されるまで、ITF大会におけるポイントを取得していない国内選手のランク付け等に使った。

事業区分：6

事業名：ジュニア大会機構における環境整備

事業内容：1. ナショナルジュニアランキング（JPINシステムを利用）のシステム構築の準備作業として協議検討を行い、以下の委員会内部での合意を得た。

ア) 都道府県の活性化、ジュニアテニス人口の拡大、理想とするジュニア大会環境の構築に大きく貢献できるシステムであることを目的として推進することとした。

イ) 平成24年度からの段階的運用開始を目指し、地域テニス協会主催大会、全国大会を対象大会としてスタートを目指すこととした。都道府県大会については、23年、24年にかけて準備して25年度から全国一斉スタートをめざし準備することとしたこととした。

ウ) ナショナルジュニアランキングはJTA必須のシステムであり、都道府県のご意見を参考にしながら段階的に推進してゆくことを委員会の決定事項とした。

2. 現行ジュニア大会規程の見直し

ア) シード選考の規程改正

国際化を鑑み、ITFポイントやジュニアグランドスラム大会での戦績などを

シード選手の選考に加え、同時に選考基準の対象大会、戦績の見直しを行った。
改正した規程の上程は23年度早々に行う予定。

イ) 外国籍を有する選手の国内滞在期間の短縮(改正)

24か月を12か月として、外国籍を有する選手への国内大会への出場資格条件を緩和した。

ウ) オフィシャルコーチの選考基準(改正)

国際大会におけるオフィシャルコーチの選考基準を具体的な誓約内容を加えるなど、改正した。

3. グラスホパーについてのアンケート協力

グラスホパー実行委員会の依頼を受けて、全地域、都府県の理事長に対するアンケートの実施に協力した。地域、都道府県が抱える派遣費用や大会そのものの意義に対するご意見など、広く実行委員会に寄せることで更なる改善を望む。

事業区分：11

事業名：会議の開催

事業内容：事業を推進するため委員会を開催した。

全国会議を、4月11日、11月21日の2回開催、常任委員会を8月16日、2月21日の2回開催した。

以上

学生強化委員会(委員長：堀内 昌一)

事業名：大学生テニス大会を取り巻く環境の改善

事業内容：学生大会及び大会スケジュールの見直し。大会の配置や選抜方法について、国内外の広い視野から見直しを行う。大会を整備し、国際大会及び全日本テニス選手権等での活躍を目的として、高校及びジュニア期からの一貫性のある強化環境を作る。

事業報告事項

○全日本学生テニス大会の予選会開催と地域割当数の是正

○全日本学生テニス選手権の本戦WCの設定

(ユニバーシアード選手の地域大会免除)

全日本学生テニス連盟、地域学生テニス連盟及び全日本大学部長監督会の懸案事項として「全日本学生テニス選手権の見直し」を各連盟と協議し予選を開催することとした。これはより多くの学生が夏季時期まで競技を継続し、さらに地域格差を是正することを目的とした。

また、ユニバーシアード開催時における強化の一貫としてユニバーシアード選手の地域学生大会の免除をし、全日本学生テニス大会本戦WCでの出場可能の制度を確立した。

事業区分：5

事業名：実業団チームとの合同練習会

事業内容：実業団委員会と連携をし、強化と就職活動も含め相互理解をし、一貫性ある競技力向上をはかる。

平成23年1月29日(土)30日(日) 亜細亜大学テニスコート

参加者 実業団 JR北海道 日本郵政、

大学 関東大学連盟所属1部2部大学男女1年から3年を対象。

・実業団と学生の交流を図るため実業団上位チームと1・2年生を中心とする関東地区学生有望選手の合同練習をおこなった。

事業区分：5

事業名：国際大会へのコーチの派遣

事業内容：国内国際大会への学生強化委員会よりコーチを派遣し、現地でのコーチングを行う
事業報告事項

○平成23年3月18日（金）～甲府女子国際テニス大会及び亜細亜大学女子国際大会において、学生選手を対象にコーチ派遣を計画、現地での視察及びコーチングを予定しましたが、東北大震災の影響で両大会がキャンセルとなり、実施できなかった。

以上

ワンコイン制度推進委員会（委員長：橋本 有史）

事業区分：11

事業名：ワンコイン制度の定着と発展

事業内容：ワンコイン制度の確実な運用を図るとともに、より広い大会への適用を行うことによって収入の増加を図りNTC活動の充実および都府県トレーニングセンターの構築に寄与することを目的に活動を行った。

1. ワンコイン制度の実施と確実な運営

ワンコイン制度も3年目に入り、着実な制度の運営とともに地域テニス協会や都府県テニス協会に働きかけ、より広い範囲での制度の適用による収入の増加を目指した。結果、21年度1579万7500円の収入に対し22年度1634万6200円と54万8700円の収入増となった。但し現時点では公認大会の報告の未着があり最終的な収入は増加するものと考えられる。特に地域テニス協会は21年度242万円に対し22年度272万円、都府県テニス協会は1091万円に対し1153万円と増加しており、JTAにつながる大会以外の制度の適用についてご協力を頂いた結果と考えられる。なお、決算数字は締日の関係から上記数字とは一致しない。

2. ワンコイン制度への信頼の醸成

ワンコイン制度の確実な運用は信頼への第一歩であるが、加えて積極的な「情報公開」やPRによって、地域、都府県協会、大会主催者や参加者への信頼を得る必要がある。そのため委員会ではワンコイン制度の運営状況とそれらの資金が活用されるNTCの活動を「ワンコイン/NTC報告書」としてまとめ、全地域協会、都府県協会に配布するとともにJTAのホームページからもダウンロード出来る形にした。また、要請を受けた地域/都府県協会の要請により実際に会議等に出向いて上記報告書の説明を行った。

3. 大会への適用の拡大の推進

ワンコイン制度の対象の拡大により収入の増加を図るため、引き続きJTAに繋がる大会以外の主催大会へのワンコイン制度の適用を地域/都府県協会へ行った。成果がすぐに表れるか否か別としてワンコインに対する理解は進んだと考えられる。

4. 他委員会との連携

報告書やPR資料の作成等NTCとの連携の元に行った。ただ、全国プロジェクト他との連携の特段の進展はなかったため23年度以降の課題として積極的に進めていきたい。

以上

クラブJTA委員会（委員長：青木 弼）

事業区分：11

事業名：クラブJTAの新たな企画・運営の実行

事業内容：ジュニア育成強化資金の募金制度であるクラブJTAの位置づけの再認識として「日

本のテニスを愛するファンクラブ的な運営」への方向付けを行った。但し会員特典等で現会員の不信を招くような見直しは不適當でありこれらも十分に配慮を行った。

ファンクラブ的な運営の新規企画として下記を実施した。

- ① 2010年12月4日(土)、ジュニアの活動を支援して下さるクラブJTA会員へ、ジュニア合宿の視察を兼ねて、味の素ナショナルトレーニングセンターを見学後、福井烈強本部長、右近憲三同副本部長、村上武資同副本部長によるテニスレッスンを実施。会員45名が全国から参加。また、次年度からは各地域でも同様な企画を実行する為の準備も完了した。
- ② 2010年東レPPOテニス入場券の先行購入の機会を会員へ確保。
- ③ 2010年楽天ジャパンオープンの観戦の機会を会員へ確保。会員の来場者は10月4日(月)から10日(日)までの7日間で延べ535名となった。

事業区分：11

事業名：クラブJTA会員組織の拡大

事業内容：クラブJTA会員組織を広げる「草の根運動」を実施。具体的には楽天ジャパンオープン、ニッケ全日本テニス選手権大会、地域に於けるナショナルメソッド講習会、を活用しての会員募集活動、さらには毎月各都道府県で1名の会員を増やす地域における会員募集活動を行い、新規会員を69名獲得、会員数は737名となった。しかしながら退会される方々も多くおられ、一年を通しての会員増加数は6名に留まった。

以上

普及・指導本部（本部長：飯田 藍）

公認指導者養成委員会（委員長：松原 慶子）

事業区分：4

事業内容：公認指導者養成事業及び検定会の開催と指導者の質の向上を目的とした研修会の開催。
普及指導本部ホームページの充実と活用を図る。
また都道府県代表委員のネットワークを構築、情報提供の活性を図るための準備を行

1. 公認指導者資格認定（コーチ・教師・上級指導員）に関する検定会
下記の通り、公認資格認定に関する養成講習会及び検定会を実施した。
 - ① コーチ：前期 東京 NTC 2010年12月1日～3日 参加者 39名
：後期 東京 NTC 2011年1月11日～13日 参加者（再検定者含） 54名
 - ② 教師：前期 東京 NTC 2010年11月8日～10日 参加者 19名
：後期 東京 NTC 2011年1月18日～20日 参加者（再検定者含） 26名
 - ③ 教師（認定校）：東京 NTC 2011年1月31日～2月1日 参加者 53名
 - ④ 上級指導員：東京 NTC 2010年12月10日～12日 参加者 46名
 - ⑤ 指導員：茨城県、三重県、大阪府、滋賀県で認定事業を行った。
 - ⑥ 上級指導員：北海道で認定事業を行った。
 - ⑦ 指導員：指導員認定校での検定会へ検定員派遣。参加者 88名
- ・各都道府県体育協会との連携で実施される指導員・上級指導員の事業に関し、当委員会より指導マニュアル、講師、検定員の派遣を行った。
- ・各養成講習会における講師の人材バンク作りについては進めているが、余裕ある講師数までは至っていないため、次年度も継続事業として取り組むこととした。
2. S級エリートコーチレベルアップ講習会を下記の日程で実施した。
2011年2月17日～20日 東京 NTC 参加者 32名
これまでもS級エリートコーチ講習会は開催してきたが、他種目からのコーチング例やマネジメント能力の向上等についてテニス界以外の経験豊富な講師からの講義、また今回の講習会ではタイムスケジュールも余裕をもってプログラムを実施することができた。そのことで、JTAからの伝達事項や受講生同士の情報交換も活発に行われ、今後のS級エリートコーチの活動に期待されるものと思われる。
3. 日本体育協会助成事業「公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会」を2010年9月6日～7日に東京 NTC で有資格者を対象に開催した。参加者は83名であった。
4. 地域および都道府県主体で開催される、公認指導者を対象にした指導者のレベルアップのためのリフレッシュ研修会を内容の確認と共に公認する。
5. 第6回プロフェッショナル対象の教育研修会を開催した。
2010年11月6日 有明テニスの森 センターコート会議室 参加者 13名
6. 指導者のネットワークの構築として、都道府県代表委員のネットワークの整備を行う。しかし、まだ担当者や連絡先不明もあり引き続き継続して行うこととした。このネットワークで、指導者講習会等の情報の発信を進めた。
7. 研修および実習ポイントについての見直しは、S級エリートコーチも含めての検討事項となり、年度内にはまとまらなかった。継続事業とし取り組むこととした。
8. 日本連合会 HP に掲載するため、テニス指導者資格についての資料作成に協力した。
会議への出席「日本テニス連合会」2010年5月14日、7月2日、9月3日、10月12日
9. 「強化指導指針Ⅲ」作成に委員会からも協力を行った。
10. 「カンファレンス」の運営協力。
11. 委員会開催
 - ① 認定校専門学校の担当教員との連絡会議を行った。
 - ② 常任委員会 3回
 - ③ 全国委員会を2011年2月18日に行った。

④ 検定部会は、検定会の際行った。

公認指導者養成委員会 教育部会

事業区分：4

事業名：養成講習会カリキュラム内容の充実を図る。養成講習会での講師の養成。

事業内容：

1. S級エリートコーチについてのカリキュラムおよびリフレッシュ講習会での内容は充実されてきたが、各養成講習会カリキュラム内容については、常に改善が必要と思われ継続事業として取り組むこととした。

事業区分：1

事業名：各指導者を対象とした指導教本制作に関する事業。

事業内容：プレーテニス教本に続き、テニス 10s の翻訳を行う。普及推進での講習会テキストとして活用される。各公認指導者を対象とした教本制作には、まだ至っておらず継続事業として取り組むこととした。

事業区分：1

事業名：中学校・高等学校指導者に対する支援事業

事業内容：学校現場での指導者に対して、上級指導員養成講習会への参加を促すと共に、テニスの普及と選手育成に現場での指導に「ドリル集」の活用を促せた。

事業区分：5

事業名：強化指導指針Ⅲの編纂事業

事業内容：強化指導指針Ⅱにおける一貫指導体制に関する指針の検証と今後の方針を策定し、JTA が抱えている全体像を示す方向で計画にいていた。新たに、「強化指導指針Ⅲ」作成プロジェクトチームが結成され、強化本部他と連携を図り作成に協力する。指導者に関わる現状の報告や今後の方向性等を示した。指導者の活動分野を明確化することで、発掘、育成、強化の各フィールドで担う役割が理解されやすくなった。

公認指導者養成委員会 検定部会

・指導員、上級指導員、教師、上級教師、コーチ、上級コーチ検定での基準づくりも整理されつつある。しかし、検定員の養成と質の向上を図るためには継続的に進める必要があり継続事業として今後も取り組むこととした。

以上

普及推進委員会（委員長：中原 かおり）

事業区分：1

事業名：テニスの日 共同イベント

47 都道府県テニス協会と他団体との協調と連携により、より多くのテニス愛好家を生み出す活動を行う

事業内容：テニスの日推進協議会との連携により実施。47 都道府県すべてで都道府県テニス協会と他団体との協調と連携のもとテニスの日が開催され、JTA の推奨する共同イベントが行われた。本年度の推奨共同イベントは、全国ボレーボレー大会、キッズテニス・イベント、ITN 査定デモンストレーション、クリーンアップ大作戦でキッズテニス・イベントにおいては PLAY +STAY プログラムの導入を推奨した。

事業区分：1

事業名：キッズプログラムの普及として PLAY+STAY を通じて推進し全国での活動に協力する。

事業内容：1. 香川県テニス協会、関西テニス協会が実施した PLAY+STAY プログラム指導者養成講習会に講師を派遣。

①平成22年12月5日 香川県にて実施

金子美穂（キッズ部会員）・藤本幸久（PLAY+STAY プログラム モデルスクール ノア インドアステージ宝塚支配人）両氏を派遣

②平成23年2月16日 兵庫県にて実施。

JTA が ITF より招聘した James Newman 氏（ITF）、金子美穂氏を派遣。

2. PLAY+STAY 特別講習会の開催

平成23年2月21日 ナショナルトレーニングセンターにて開催。

James Newman 氏（ITF）を講師とし、昨年度開催された TOTO 助成事業 PLAY+STAY 特別講習会参加者、PLAY+STAY プログラムを積極的に推進している指導者に対し HP 上で開催要項を配信し参加者を募集。

参加者数：31名

事業区分：1

事業名：コーチーズカンファレンスの開催

事業内容：第21回を迎えるにあたり、これまで隔年で開催されていた「JTA ワークショップ」と「コーチーズカンファレンス」を融合し、名称を「JTA カンファレンス」とした。選手強化に関する内容のワークショップとテニスの普及に関する内容のコーチーズカンファレンスを同期間中にそれぞれ1日ずつ開催することにより、「JTA カンファレンス」において強化と普及を2本柱とする JTA の指針を明確に発信することが可能となった。

開催日：平成23年2月19日（土）（旧ワークショップ：強化）

20日（日）（旧コーチーズカンファレンス：普及）

会場：味の素ナショナルトレーニングセンター

参加者数：2月19日 298名

2月20日 327名

以上

ハンディキャップテニス部会（ICN）小泉 弘子

2010 年度事業報告

(1)4月26日に英国テニス財団より2名、メトロテニスより3名、計5名の代表団が来日し、「ブラインドテニス」の普及、指導法、将来的には「パラリンピック」の種目に採用されるよう「日本ブラインドテニス連盟」との話し合いが持たれた。この会議に出席し意見交換した。

於：新宿ベストウエスタンホテル 15:00～18:00

(2)7月11日「第26回関東聴覚障害者オープンテニス大会」視察

於：土浦市 新治運動公園テニスコート

(3)7月18日「第10回視覚ハンディキャップテニス茨城オープン」視察

於：ひたちなか市（日製健康組合勝田第2体育館）

(4)9月23日「テニスの日 車いすテニス講習会」（雨天のため中止）

・参加者集め

・ボランティアスタッフ集め・・・アシスタントコーチ1名、運営4名

(5)11月2日 日本車いすテニス協会事務局より「WORLD TEAM CUP 2011」

エントリーに対する、日本テニス協会の承認依頼。事務局に対応依頼

(6)12月3～5日「第20回 NEC 全日本選抜車いすテニス選手権大会」視察

於：柏市（吉田記念テニス研修センター）

以上

中体連対策委員会（委員長：飯田 藍）

事業区分：1

事業名：日本中体連加盟に関する促進事業

事業内容：1. 全国中学生団体戦の参加資格の設定による加盟促進運動

1) 団体戦参加資格について

- 平成 21 年度制定した、全国中学生テニス選手権大会団体戦の参加資格を取得するために、未加盟道県での加盟運動に拍車がかかり、今年度は大きな前進を見た。私立中学校では、団体戦の出場に引率や生徒に対する扱いに何ら支障はないが、（公立中学校では中体連の事業ではないため校務とされず）22 年度の全国中学生テニス選手権大会（山口開催）団体戦の参加資格としての縛りは、加盟しないと団体戦に出場できなくなるという私立の先生方に大きな危機感を持たせ、私立公立の立場の違い、加盟し対する見解の相違の垣根を取り払う効果があった。
- 平成 24 年度（関東開催）の全中団体戦の参加資格を、「加盟運動をしていること」という 2 年間の移行措置を外し「加盟又は準加盟」の都道府県代表のみとして、さらにハードルを高くする方針で、その全国大会団体戦の実施方法等協議を進めてゆくこととした。
この措置により、さらに未加盟道県の加盟に拍車がかかることを期待する。

2) (財) 日本中体連への加盟運動

- 2 月 23 日、日本中体連事務局において日本中体連塩田専務理事と J T A 側から会長、専務理事を含む 7 名が面談をした。J T A は、中体連方式による全国大会開催の主旨説明や、加盟運動の現状報告と中学生のテニス競技人口の実勢等説明をして一刻も早い加盟実現を図るためのご理解とご支援を依頼した。これに対し J T A の取り組みと全国中学選手権大会の開催実績に対して高く評価していること、及び日本中体連への加盟の条件は、9 地域中 6 地域での地域加盟をクリアーしてほしい等の説明があった。
- 24 年度に予定されている中体連加盟競技の見直しに向けて、6 地域加盟という正規の加盟要件を満たさなくても、テニス競技を「競技加盟」していただけるよう嘆願するなどさらに運動を強化推進するため準備をすることとした。

3) 地域中体連への加盟運動

- 昨年から協議されていた九州中体連への加盟が実現し、3 月には徳島県中体連の加盟が実現したことにより四国中体連にも加盟（23 年度から 2 年間は準加盟）が承認された。長い間近畿中体連のみの時代が続いたが、これにより一気に 3 地域での加盟となった。
- 広島県、鳥取県が有力な中国地域や千葉、茨城、神奈川など有力な県を有している関東地域、札幌市に加盟することが条件となっている北海道、あるいは残り 2 県で実現する東海地域などを重点地域として支援する。
- これらの地域テニス協会に対して、中体連加盟運動を先生方（特に公立中学校）と連携し、支援推進していただくよう依頼した。

4) 未加盟道県における情報の共有

- 全国の未加盟道県で進められている加盟運動の進捗状況の把握と共に、これらの支援活動を行った。
- 特に関東地域は最重要地域であり、ここでの加盟は日本中体連加盟に大きな影響力を与えると位置づけをして、特に千葉県、神奈川県で活発に支援活動を行った。
- 団体戦の参加資格条件が、先生方に対してあるいは中体連サイドにも考慮すべき背景として加盟運動に貢献している実態が明らかになったが、中央での加盟運動の状況、実績も加盟審議の席上に要件の一つとして影響を与えることも判明した。23 年度の道県における加盟運動にこれを最大限活かすためにも、J T A と全国中体連との連携で、日本中体連加盟運動もまだ 3 地域での加盟でしかない状況だが積極的に進めるとした。

加盟状況：都道府県加盟：19、準加盟4、未加盟24。地域加盟：九州、四国、

近畿。(平成 23 年 3 月現在)

5) 組織改編について

- ・全国中テ連と J T A 中体連対策委員会の連携を円滑に進めるために、中体連対策委員会の組織構成を地域代表による組織を委員長指名による委員の構成に改編した。J T A は今後 (財) 日本中体連に対する加盟促進を第 1 義の組織目標としこれを進めながら、未加盟道県のテニス協会ネットワークを利用して、加盟運動に関する情報の相互交信を図ること、全国中学生テニス選手権大会団体戦を限りなく中体連方式に段階的に移行するための主催者責任を果たしてゆくこととした。

6) 全国中学校テニス連盟との関係

- ・全国中学生テニス選手権大会の開催を通して、中体連加盟への実績となるよう中体連方式に倣った大会運営を依頼。大会運営マニュアル等加盟移行を円滑に行えるよう準備を行うこととした。
- ・平成 24 年度関東地域、25 年度東海地域、26 年度四国地域で開催される全国中学校体育大会と同じ会場地域で開催することを確認した。
- ・日本中体連に加盟が実現した場合の財源、日程、団体戦の在り方等を調査検討し、準備態勢に入った。

以上

スポーツ環境委員会 (委員長：橋爪 功)

事業区分： 1

事業名： JOC スポーツ環境委員会、他の競技団体、テニス団体そして環境保全組織と連携し、テニス界を中心に自然環境保全と整備を目的とした活動 (3R 推進)

事業内容：

1. テニス界における自然環境保全の啓蒙・実践活動
 - (1) JTA 主催 14 大会をはじめデ杯、コーチーズカンファレンス、修造チャレンジなどの講習会で環境バナーやエコフラッグ、環境ポスターを掲出した。
 - (2) 「テニスの日」の共同イベントとして、各団体の協力のもとに 47 都道府県で「クリーンアップ大作戦」を実施した。
 - (3) 松岡修造プロの協力による環境ポスター (リニューアル版) を 500 枚制作し、47 都道府県で約 250 枚、JTA 主催大会やカンファレンスで残りを活用した。
2. JOC とともに「チャレンジ 25 キャンペーン」に参加し、JOC による「スポーツ環境専門委員会」(4 回)、「スポーツと環境地域セミナー」(於横浜)「スポーツと環境担当者会議」に担当者が出席し、情報の共有と交流を深めた。
3. 47 都道府県との交流と協働を進めるために「環境だより」(1 回)を発信、「環境レポート」は 1000 部発行し、カンファレンス参加者と各地に配布した。
4. NPO グローバル・スポーツ・アライアンスとの協働を発展させるため、ボールのリユースへの協力とエコフラッグの掲出を進めた。
5. その他「全日本ベテラン選手権大会」のタイトルスポンサーである帝人株式会社との環境ポスターによる協働、JTA の HP における環境コーナーのリニューアルを実施した。

以上

アンチ・ドーピング委員会（委員長：岩増 弘志）

事業区分：1 1

事業名：ドーピング検査の実施と協力

- 事業内容：1. 全日本テニス選手権大会において、12名(男・女各6名)の検査を実施した。(1月3日有明)
2. 全日本ジュニアテニス選手権大会において、12名(男・女各6名)の検査を実施した。(8月13日 大阪)
3. 全日本学生テニス選手権大会に於いて、8名(男・女各4名)の検査を実施した。(9月1日有明)
4. 日本リーグ(2ndステージ・決勝)に於いて、18名(男14名・女4名)の検査を実施した。(1月22日・2月12日 横浜・東京代々木)

事業区分：1 1

事業名：アンチ・ドーピングの啓蒙

- 事業内容：1. 日本アンチ・ドーピング規程の受諾に伴い、その主な内容につき周知徹底を図った。
2. 新人プロ研修会およびS級エリートコーチ養成講習会にてアンチ・ドーピングの講習を実施いたしました。
3. 全日本ジュニア選手権大会において 日本アンチ・ドーピング機構に依頼し会場に啓蒙ブースを設け選手・保護者・指導者に啓蒙活動を行った。(アウトリーチ)
4. 上記の事業を推進し最新情報周知の徹底を図るため、全体会議を年1回開催した。

事業区分：1 1

事業名：サプリメントに関する指導方針の策定と徹底

- 事業内容：新人プロ研修会およびS級エリートコーチ養成講習会において サプリメントの禁止薬物が含まれているかどうかの検索方法について説明し今後のサプリメント摂取のガイドラインを示した。

以上

トーナメント本部（本部長：内山 勝）

ジャパンオープン委員会（委員長：内山 勝）

事業区分：3

事業名：2010 楽天ジャパンオープンの開催

事業内容：2010 楽天ジャパンオープンの開催

楽天オープンとして2年目となる今回は、1年目を上回る成果を上げるべく各セクションにおいて IMG マーケティングと協力しながら、大会の質を上げると共に作業の効率化を図った。2008 年のリーマンショック以降、依然回復の兆候が見られない日本の経済情勢において、日本テニス協会の財政も厳しく大変難しい予算の中での運営であった。

度重なる交渉の末ナダル、ロディック、ツォンガ、モンフィス、デルポトロ、メルツァー、ヒューイト、ナルバンディアンが出場。怪我から復帰の錦織圭が WC で出場できたことで非常に注目度の高い大会となった。

世界トップ選手の出場、また期間中を通して天候にも恵まれ、大会史上最大の 80,131 名のお客様にご来場頂いた。中でも男子シングルス準決勝、ナダル対トロイツキ戦は歴史的な大接戦となり、ATP ツアーにおいても年間で最高の試合の一つであったとされている。

経費面では事業仕分けを徹底し、無駄な支出を抑えると共に新たな収入への投資を行い、増収につなげることに成功した。今後も引き続きチケットセールス・マーチャンダイズを展開し、更なる来場者サービスと選手サービスを向上させ、大会を発展させていきたい。

1. 試合進行

(ア) 例年雨天に悩まされるジャパンオープンであるが、今年は過去に例を見ないほどの好天に恵まれ、順調にスケジュールを消化することができた。土曜日に雨が降ったため、試合が深夜まで及んでしまったが、屋根を閉めたセンターコートで全試合を行ったことで、お客様には十分にお楽しみ頂けた。

2. 観客サービス

天候の良さと選手招聘活動が実を結び、大会史上最高の 80,000 人を超える来場者数となった。

(ア) 新たな取り組みとして、ホークアイを導入し、選手サービスの向上とともにお客様にもお楽しみ頂けたと確信する。メディアに対してはサンデーイベント開始前にホークアイ説明会を開催した。

(イ) お祭り広場中央に大きなコロナバーを設置し、また広場横にビーチテニスコートを設置するなど、開放的な雰囲気を演出した。

(ウ) 昨年まで選手レストランとして使用していた常設レストランをお客様へのサービスとして来場者向けに開放し、飲食スペースを拡充させることができた。

(エ) ATP サンデーには直前でナダル選手の出場が急遽決定となり、会場はサプライズ出場に大いに沸いた。世界一の選手を迎えるコロシアムは感動的な空気に包まれた。

(オ) 昨年に引き続き ATP Feel it キャンペーンとタイアップし、ATP500 シリーズのプロモーション企画としてマーチャンダイズを展開し、ATP からも高い評価を得た。今後も継続し、更に発展させる。

3. スポンサーサービス

(ア) バックドロップ、会場内の造作物をスポンサーカラーである、赤に一新。イベントとしての統一感を演出し、スポンサーおよび来場者より、イメージチェ

ンジの高評価を得られた。

- (イ) サブスポンサーについても概ね満足しているなどの高評価を得られた。引き続き綿密なコミュニケーションを図ると共により良いスポンサーシップの関係を構築するよう努める。
- (ウ) コロナラウンジやロンジンカフェ等、ネーミングライツを販売することでスポンサーの露出拡充に努めたが、質とともに幅を広げ、今後も継続発展させる。

4. テレビ放送

- (ア) 長年ご協力頂いていた NHK に代わり、新しく WOWOW がオフィシャルブロードキャスターとなった。日本国内ではグランドスラムを放送する放送局でもあり、ウィンブルドン、US OPEN 期間中をはじめ数々のプロモーション活動にご協力頂いた。
- (イ) カメラの場所等に関して一部現場で調整を必要とすることが起こったため、今後は事前を含めて、更にコミュニケーションを綿密に取る必要性を感じた。
- (ウ) WOWOW と協力して、ジャパンオープンのプロモーションビデオを制作した。国内では評議員会・常務理事会等、海外では ATP の会議において放映し、楽天オープン 2010 の報告をするるとともに今後のスポンサーセールスに活用する。

5. 選手サービス

- (ア) 空港とホテル間の送迎は全て個別車両（バン）で行い、ホテル・会場間においても個別対応ができたため、ATP および選手から大変好評を得られた。
- (イ) ATP と ITF の選手ラウンジの分離、ATP 選手ラウンジ内にツアーマネージャーデスクの配置、トレーニングジムの設置等の新規取り組みにより高評価を得られた。
- (ウ) コートサーフェスについては「早すぎる」とナダル・ロディック・ツォンガ・錦織等招聘選手から ATP へ要望があり、ATP から改善を求められている。有明へのサーフェス修繕の要望をしなければならない。
- (エ) 選手へのサービスについて、今後大会の更なる向上のためにも、種々改善が必要である。会場・ラウンジの装飾、IDの発行、管理の方法について、選手から不満が出ないようにしたい。

総括

来年度も財政的にさらに困難な状況であるが、選手、スポンサー、観客のニーズを十分に配慮した運営スキームを構築してプロモーション活動し、2014年までにトーナメントオブザイヤヤーとなるレベルの大会に向上させたいと考えます。

以上

トーナメント委員会（委員長：中西 伊知郎）

事業区分：2

事業名：国内大会の開催ならびに支援、JTA公式トーナメントの開催ならびに支援、2010年テニスカレンダーの日程調整、JTAランキングシステムの拡充と検証、選手登録の拡充と管理

事業内容：1. 国内大会の開催ならびに支援

- ◆ニッケ全日本テニス選手権大会 2010（10月30日～11月7日）
- ◆島津全日本室内テニス選手権大会（3月7日～13日）
- (2) 国内大会主催者への助言
 - ◆トーナメント報告書の充実をした。（地域選手権・JTT大会）
- (3) 2010年テニスカレンダーの日程調整
 - ◆ディレクター会議を中止し事務局内にて大会主催者と調整

- (4)年間 J T A ランキングの作成および発表
 - ◆2011年2月に発表
- (5)選手登録者数の拡充と管理
 - ◆2010年登録者数は男子3863名、女子2014名
 - ◆JTA新登録システムを検討した。
- (6)新設国内大会の調査、検討、公認
 - ◆新設大会20大会の公認
- (7)他委員会との連携を密にしより良い計画、運営を図る。

事業区分：3

事業名：国際大会の開催並びに支援、国際大会のよりよい運営の検討

事業内容：1. 日本テニス全体の向上を目指した国際大会の開催並びに支援

- (1)デビスカップ、フェドカップ2010
 - ◆デビスカップ：3月4日～6日（対フィリピン戦：なみかやドーム）
- (2)ジャパンオープン2010（10月4日～10日）
- (3)京都チャレンジャー2010（3月8日～3月14日）
- (4)ジャパンオープンジュニア2010（3月29日～4月4日）
- (5)大阪市長杯ワールドスーパージュニア2010（10月18日～24日）
- (6)ジャパンウーマンズオープンテニス2010（10月11日～17日）
- (7)各種公認大会の開催支援
 - ◆本年度の新規大会の公認申請はなかった。
- 2. 国際大会の公認および新規国際大会の開催準備
 - (1)国際大会2011年の検討および開催の公認
 - ◆男女ディレクター代表会議の開催（3月16日）
 - (2)国際大会2010年の各大会視察と翌年の開催週の検討
 - ◆2011年度開催週の検討（3月16日）
 - (3)新設国際大会の調査、検討、公認
- 3. 国際大会のよりよい運営の検討
 - (1)他委員会との連携を密にしより良い計画、運営を図る。
 - ◆審判委員会・ドクター部会と連携
 - (2)国際大会開催、運営に関するマニュアルの更新

事業区分：5

事業名：ジュニア大会のより発展と活性化に協力

事業内容：全国で開催されるジュニア大会の発展および活性化に協力し、選手達の強化を支援する。

- ①トヨタジュニアテニストーナメント（4月7日～10日）
- ②全国選抜ジュニアテニス選手権大会（5月20日～23日）
- ③全国小学生テニス選手権大会（7月28日～30日）
- ④全日本ジュニアテニス選手権大会（8月5日～17日）
- ⑤全国中学生テニス選手権大会（8月18日～24日）
- ⑥U-13全国選抜ジュニアテニス大会（10月22日～24日）
- ⑦U-15全国選抜ジュニアテニス選手権大会（11月3日～11月7日）
- ⑧全日本ジュニア選抜室内テニス選手権大会（2月15日～17日）

事業区分：6

事業名：ジュニア大会に関する事項

事業内容：ジュニア大会運営等々の環境整備

- ①ジュニア大会スケジュールに関わる件
 - ◆2012年度インターハイ開催時期変更に伴う日程検討
 - ◆2011年度全国中学生テニス選手権大会日程変更に伴う日程検討

- ②ディレクター、レフェリーに関わる件
◆審判委員会、ジュニア委員会と検討し決定

以上

ドクター・トレーナー部会（部会長：別府 諸兄）

事業区分：11

事業名：ドクター・トレーナーの派遣

平成22年度ドクター・トレーナー派遣

ドクターおよびトレーナーの派遣に関しては、下記表のとおりである。

- ・ドクター派遣に関しては、主要大会への派遣が行われているが、地域大会での派遣状況については常駐なしまたは不明が多く、医事委員会的な問題が起きても対処できない。
- ・トレーナー派遣は、国際大会に関しては活動基準、配備申請などをお願いしているものの、いまだ半数以上は、トレーナーの配備申請もなく現状が把握できないところが多い。
- ・活動状況、費用、日当など昨年取り決めをしたが、一向にそれを満たした条件での要請はなく、今後の課題である。
少なくとも、メディカル体制についての各トーナメントの状況を知る上で全トーナメント（国際、ジュニア大会）からの派遣申請、配備申請の提出を義務付けたい。

《大会の中止、延期》

- ・3月11日に起こった東日本大震災により以下のトーナメントが中止または延期となった。
- ・フェドカップは、4月に有明コロシアムでの開催であったが、7月に兵庫県三木市のビーンズドームに変更となった。

【男子トーナメント】

- ・亜細亜大学フューチャーズ（予選のみ開催・本戦中止）
- ・早稲田大学フューチャーズ（中止）
- ・甲府国際テニス（中止）

【女子トーナメント】

- ・甲府国際オープンテニス（延期）
- ・亜細亜大学国際女子オープンテニス（中止）

《ドクター、トレーナーの派遣大会》

備考：○＝派遣あり ×＝派遣・申請なし 数字＝派遣人数 ?＝不明

【ナショナルチーム】

	大会名	会場	DR	AT	JTA	現地
1	フェドカップ WGII プレーオフ	スロベニア	1	1	○	-
2	デビスカップ アジアオセアニア	オーストラリア	1	1	○	-
3	アジア大会	中国 広州	×	2	○	-
4	フェドカップ アジアオセアニアグループ	タイ バンコク	1	2	○	-
5	デビスカップ アジアオセアニアグループ	フィリピン セブ	1	1	○	-

【国際大会 男子】

	大会名	会場	DR	AT	JTA	現地
1	F4 軽井沢フューチャーズ	長野	?	1	○	×
2	F5 草津国際ヨネックスオープン	長野	?	?	×	?
3	F6 昭和の森国際男子テニス	東京	?	?	×	?
4	F7 JPTA 札幌国際オープン	北海道	?	1	×	○
5	F8 JPTA メガロス東京国際オープン(中止)	有明	?	?	×	?
6	ジャパンオープン	有明	1	3	○	×
7	F9 フューチャーズ柏オープン	千葉柏	×	1	×	○
8	Masa フューチャーズ(中止)	東京	?	?	×	?
9	F10 学生チャレンジ国際テニス	亜細亜大	×	1	○	×
10	F11 JPTA 大阪国際オープン	大阪	?	?	×	?
11	慶応大学チャレンジャー(中止)	横浜	-	-	-	-
12	ダンロップ・ワールドチャレンジテニス	豊田	1	2	○	ATP
13	京都チャレンジャー	京都	×	1	×	○
14	F1 亜細亜大学国際オープンテニス(中止)	亜細亜大	×	1	○	×
15	F2 早稲田大学フューチャーズ(中止)	早稲田	×	1	×	○
16	F3 甲府国際オープン(中止)	山梨	×	1	×	○
17	F4 筑波大学フューチャーズ(中止)	茨城	1	1	○	○

【国際大会 女子】

	大会名	会場	DR	AT	JTA	現地
1	カンガルーカップ国際女子	岐阜	?	1	○	×
2	福岡国際女子テニス	福岡	?	1	○	○
3	久留米ベストアメニティカップ	久留米	?	1	○	○
4	軽井沢国際女子	長野	?	1	○	○
5	草津国際女子	長野	×	1	○	×
6	JNS こもろ国際女子オープン	長野	?	1	×	○
7	東京有明国際女子オープン I	有明	?	?	×	?
8	須玉国際女子オープン	山梨	?	?	×	?
9	昭和の森国際女子	昭島	?	?	×	?
10	宮崎国際女子チャレンジャーテニス(中止)	宮崎	?	?	×	?
11	新潟国際女子テニス	新潟	?	?	×	?
12	埼玉国際女子サーキット	埼玉	×	1	○	○
13	セキショウ国際女子オープン	茨城	×	1	○	×
14	JPTA 能登国際女子オープンテニス	石川	×	1	○	×
15	GS ユアサ国際女子オープン	京都	?	?	×	?
16	牧の原国際女子オープン	静岡	?	?	×	?
17	東レパンパシフィックオープンテニス	有明	○	2	○	WTA
18	浜名湖国際女子オープン	静岡	?	?	×	?
19	ジャパンオープンテニス	有明	1	1	○	ITF
20	JAPAN WOMENS OPEN 2009	大阪	1	×	×	WTA
21	東京有明国際女子オープン II(中止)	有明	-	-	-	-
22	兵庫国際女子オープン	兵庫	?	1	○	○
23	ダンロップ・ワールドチャレンジテニス	豊田	1	1	○	○
24	宮崎国際女子チャレンジャー	宮崎	?	?	×	?
25	甲府国際女子オープン(中止)	山梨	?	1	○	○

26	亜細亜大学国際女子オープン（中止）	亜細亜大	×	1	○	-
----	-------------------	------	---	---	---	---

備考：○=派遣あり ×=派遣・申請なし 数字=派遣人数 ?=不明

【一般大会】

	大会名	会場	DR	AT	JTA	現地
1	全国レディース決勝大会	昭和の森	1	2	○	×
2	全日本テニス選手権	有明C	1	6	男女	+α
3	島津全日本室内テニス選手権		?	1	×	○
4	国民体育大会		?	?	?	○

【学生大会】

	大会名	会場	DR	AT	JTA	現地
1	関東学生テニストーナメント	東京	×	1	○	+α
2	ユニバーシアード	-	-	-	-	-
3	全日本学生テニス選手権	有明	×	3	○	+α
4	関東学生テニス選手権	東京	×	1	○	+α
5	全日本大学対抗テニス王座決定試合	岐阜	×	1	○	○
6	全日本学生室内テニス選手権	京都	×	1	○	○

【ジュニア大会】

	大会名	会場	DR	AT	JTA	現地
1	DUNLOPCUP 全国選抜ジュニアテニス選手権	千葉柏	×	1	×	○
2	アジア ATF U-14 シリーズトーナメント	山梨	×	?	×	?
3	全国小学生テニス選手権	東京	1	×	○	×
4	全国高校総体	奈良	?	?	×	?
5	全日本ジュニアテニス選手権	大阪・靱	1	2	○	○
6	全国中学生テニス選手権	山口宇部	×	1	○	○
7	兵庫国際ジュニアテニストーナメント I	兵庫	×	1	○	○
8	全国高等専門学校テニス選手権	熊本	?	?	×	?
9	兵庫国際ジュニアテニストーナメント II	兵庫	×	1	○	○
10	国民体育大会	新潟	?	?	×	?
11	世界スーパージュニアテニス選手権 (ITF:GA)	大阪・靱	1	2	○	○
12	RSK 全国選抜ジュニア	岡山	?	?	×	?
13	U-15 全国選抜ジュニア (中牟田杯)	福岡	?	?	×	?
14	ITF 埼玉国際ジュニアテニス (ITF:G4)	埼玉	?	?	×	?
15	全日本ジュニア選抜室内選手権	大阪	1	2	○	○
16	埼玉ジュニアテニス春季 (ITF:G5)	埼玉	?	?	×	?
17	全国選抜高校テニス	福岡	?	?	×	?

備考：○=派遣あり ×=派遣・申請なし 数字=派遣人数 ?=不明

事業区分：1 1

事業名：テニス障害の対策

1) 「テニス・メディカルセミナー」の開催

① 「第31回テニス・メディカルセミナー」

期日：平成22年7月17日（土）

会場：聖マリアンナ医科大学・別館8階 臨床講堂

講師：中田 研 先生

大阪大学大学院医学系研究科 器官制御外科学（整形外科）

（財）日本テニス協会 強化本部ナショナル TSS

テーマ：「テニスと下肢のスポーツ傷害」

参加者：84名

②「第32回テニス・メディカルセミナー」

期日：平成22年11月27日（土）

会場：聖マリアンナ医科大学・別館8階 臨床講堂

講師：三宅 良彦先生（聖マリアンナ医科大学病院 病院長・循環器内科教授）

○演題名：テニスコートでの心臓発作について

○実技講習：AEDの操作の実技

講師：岩本 紗由美先生（東洋大学ライフデザイン学部健康スポーツ学科准教授）

○演題名：テニス選手のための下肢外傷・障害予防プログラムについて

○実技講習：下肢障害予防の実技

参加者：64名

2) AED（自動体外式除細動器）の諸大会への配備

ドクター・トレーナー部会が管理運用を担当しているAED3台を「デ杯」「フェド杯」「全日本ジュニア選手権大会」「全国中学生選手権大会」「AIG OPEN」「全日本ベテラン選手権大会」「全日本選手権大会」「全国レディース決勝大会」等の各大会に配備、フルに活用した。

事業区分：11

事業名：選手の痙攣防止対策の立案・提言

事業区分：11

事業名：スポーツビジョン(スポーツに必要な視覚能力)の啓蒙と普及

事業区分：11

事業名：ドクター・トレーナー業務の充実

1) テニスメディカルスタッフ研修会を2回開催

会場：聖マリアンナ医科大学・別館8階 臨床講堂

期日：平成22年7月17日（土）

①「ドーピングについて」北條達也先生（同志社大学スポーツ健康科学部教授）

②「股関節のテニス障害」高平尚伸先生（北里大学整形外科講師）

③「膝関節のテニス障害」金森章浩先生（筑波大学整形外科講師）

④「ケイレンに関するルールの変更」村木良博トレーナー（ケアステーション）

期日：平成22年11月27日（土）

①2010年4～12月の大会の報告

関西担当：中田 研先生

関東担当：金森 章浩先生

②アンチ・ドーピング委員会より報告

2) 日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成講習会

事業区分：11

事業名：地域メディカルサポート体制の整備

1) 日本テニス協会医事委員会が無くなったため、ドクター・トレーナー部会、テクニカルサイエンスサポート部会、アンチ・ドーピング委員会の3つの合同ミーティングを行い、情報の共有化を図っている。

このミーティングは、テニスメディカルスタッフ研修会およびテニス・メディカルセミナーの前に行っており、全国のドクターの協力体制をさらに強化できるものであり、また学会等で、さらにテニスを愛好されるドクターへの協力もお願いしている。

2) 日本体育協会の公認スポーツドクター養成講習会への推薦

以上

ビーチテニス部会（部会長：川廷 尚弘）

事業区分：1 1

事業名：大会の開催並びに支援、より良い運営の検討・サポート

事業内容：1. 日本のビーチテニス界全体の向上を目指した大会の開催並びに支援

*ITF 公認国際大会：年間 10 大会

*JTA Beach Tennis Tour：年間 4 大会

- (1) ITF G4 Kawasaki tournament-1 (4/24) 日本ビーチテニス協会主催
- (2) JTA tour Kugenuma tournament (4/29) 日本ビーチテニス連盟主催
- (3) ITF G4 Tokyo Odaiba tournament-1 (5/8) 日本ビーチテニス協会主催
- (4) ITF G4 Kawasaki tournament-2 (5/23) 日本ビーチテニス連盟主催
- (5) ITF G4 Hiratsuka tournament-1 (6/20) 日本ビーチテニス連盟主催
- (6) JTA tour Katase tournament (7/10) 日本ビーチテニス連盟主催
- (7) ITF G4 Kawasaki tournament-3 (7/17) 日本ビーチテニス協会主催
- (8) ITF G4 Fujisawa tournament-1 (8/22) 日本ビーチテニス連盟主催
- (9) ITF G4 Hayama tournament (8/28) 日本ビーチテニス協会主催
- (10) JTA tour Okayama tournament (9/18) 日本ビーチテニス協会主催
- (11) NPK CAP Miyazaki tournament (9/26) 日本ビーチテニス協会公認
- (12) ITF G4 Hiratsuka tournament-2 (9/26) 日本ビーチテニス連盟主催
- (13) ITF G4 Tokyo Odaiba tournament-2 (10/9) 日本ビーチテニス協会主催
- (14) ITF G4 Fujisawa tournament-2 (10/16～17) 日本ビーチテニス連盟主催

事業区分：1 1

事業名：会議の開催

事業内容：ビーチテニス界の環境整備のための会議の開催

- ①第1回部会会議（4/20）江の島海岸
 - ◆部会メンバーの確定
 - ◆基本ルール・試合フォーマットの統一
 - ◆大会申請・承認プロセスの統一
 - ◆ホームページの立ち上げ・ランキングの作成/管理
- ②第2回部会会議（12/1）岸記念体育会館会議室
 - ◆試合フォーマットの再構築
 - ◆大会使用球/エントリー料の統一
 - ◆大会申請・承認プロセスの再構築
 - ◆その他、ビーチテニス普及に関する事項の確認

以上

国体委員会（委員長：森 清吉）

事業区分：2

事業名：第34回全日本都市対抗テニス大会抽選会ならびに準備等

事業内容：抽選会及び会場最終視察並びに開催準備

期 日：平成22年6月16日（水）～17日（木）

場 所：山口県周南市・麒麟ビバレッジ周南庭球場

山口県岩国市・岩国市テニスコート

出席者：森清吉（国体委員長）、杉澤雅敦（副委員長）、鈴木宏（事務局長）、山口県テニス協会、岩国市、周南市、岐阜県テニス協会（視察）

内 容：①競技施設の最終確認
②都市対抗組合せ抽選

事業区分：2

事業名：第71回国民体育大会（岩手県）第1回中央競技団体正規視察

事業内容：国体開催会場の正規視察と運営に関する指導及び助言

期 日：平成22年7月12日（月）～7月13日（火）

場 所：岩手県盛岡市・市立太田テニスコート他
岩手県八幡平市・安比高原テニスクラブ他

出席者：森清吉（国体委員長）、杉澤雅敦（副委員長）、鈴木宏（事務局長）
岩手県テニス協会、岩手県、盛岡市、八幡平市

内 容：①国体テニス競技会場ならびに練習会場の視察
②宿泊、輸送、競技運営に関する指導及び助言

事業区分：11

事業名：国体委員会の開催

事業内容：第1回国体委員会（本委員会後に 第34回全日本都市対抗代表者・監督会議実施）

期 日：平成22年7月15日（木）14:30～16:30

場 所：ホテルサンルート徳山「大華の間」

出席者：森国体委員長、杉澤副委員長、佐伯・松本・田中常任委員
奥村・浅沼・石原・小野・磯辺・荒谷・福井・堀川・田辺各委員
鈴木 JTA 事務局

陪席者：千葉県 TA、山口県 TA、※各県行政関係者含む

内 容：①財団法人 日本体育協会報告の件
②山口県都市対抗テニス大会（国体テニス競技を含む）の件
③国体ならびに都市対抗準備状況報告
千葉県、岐阜県、東京都、長崎県
④各地域報告
⑤国体テニス競技監督資格の件
⑥国体テニス競技参加資格の件（プロフェッショナルの参加可否）
⑦その他

事業区分：2

事業名：全日本都市対抗テニス大会の実施

第34回全日本都市対抗テニス大会（第66回国民体育大会リハーサル大会）

事業内容：都市対抗団体トーナメントの実施

期 日：平成22年7月15日（木）～18日（日）

会 場：山口県周南市・キリンビバレッジ周南庭球場
山口県岩国市・岩国市テニスコート

参加人数：32チーム384人

事業区分：11

事業名：国体委員会の開催

事業内容：第2回国体委員会

期 日：平成22年9月4日（土）11:35～13:05、15:25～15:55

場 所：岸記念体育会館 1階101会議室

出席者：森国体委員長、杉澤副委員長、佐伯・松本・田中常任委員
奥村・浅沼・石原・小野・磯辺・荒谷・福井・堀川・田辺各委員
鈴木 JTA 事務局

陪席者：千葉県 TA、山口県 TA、東京都 TA、※各県行政関係者含む

内 容：①千葉国体シードの件

- ②千葉国体抽選会ならびに代表者監督会議の件
- ③国体ならびに都市対抗準備状況報告
千葉県、山口県、岐阜県、東京都、長崎県、岩手県、愛媛県
- ④岐阜県都市対抗開催要項案の件
- ⑤財団法人日本体育協会報告の件
- ⑥JTAA常務理事会報告の件
国体参加資格、都市対抗日程、JTAポイント改訂、その他
- ⑦都市対抗参加枠ならびに前号に関わるマニュアル改訂
- ⑧その他

事業区分：2

事業名：第65回国民体育大会抽選会並びに準備等

事業内容：千葉国体テニス競技の参加資格確認ならびに各種目の組合せ抽選の実施

期 日：平成22年9月4日（土）14:00～15:20

場 所：岸記念体育会館 5階 504・505号会議室

出席者：森国体委員長、杉澤副委員長、佐伯・松本・田中常任委員
奥村・浅沼・石原・小野・磯辺・荒谷・福井・堀川・田辺各委員
鈴木 JTA 事務局

陪席者：千葉県 TA、山口県 TA ※各県行政関係者含む

抽選立会：(財)日本体育協会 不老浩二国体副委員長、石樽詔之委員
国体推進部国体課 松村 広大

事業区分：1 1

事業名：国体委員会の開催（本委員会後に第65回国民体育大会代表者・監督会議実施）

事業内容：第3回国体委員会

期 日：平成22年9月30日（木）14:30～16:30

場 所：千葉県柏市 アミュゼ柏 会議室 A

出席者：森国体委員長、杉澤副委員長、佐伯・松本・田中常任委員
奥村・浅沼・石原・小野・荒谷・福井・堀川・田辺各委員
鈴木 JTA 事務局

陪席者：千葉県 TA、山口県 TA、岐阜県 TA、東京都 TA

※各県行政関係者含む

内 容：①千葉国体の件（代表者・監督会議、選手・監督変更の件他）

②財団法人日本体育協会報告の件

③国体ならびに都市対抗準備状況報告

山口県、岐阜県、東京都、長崎県、和歌山県、愛媛県

④国体マニュアル改訂の件

⑤少年種目シード数改正の件

⑥少年種目シード決定評価の件

事業区分：2

事業名：第65回国民体育大会（千葉県）開催

事業内容：9月30日（木）の代表者・監督会議において参加選手の変更及び確認事項

期 日：平成22年10月1日（金）～4日（月）

場 所：千葉県立柏の葉庭球場、柏市柏の葉庭球場、柏市富勢運動場庭球場

参加人数：成年男子32都道府県64名、成年女子32都道府県64名

少年男子47都道府県141名、少年女子47都道府県141名

合計 410名

事業区分：2

事業名：第70回国民体育大会（和歌山県）第1回中央競技団体正規視察

事業内容：国体開催会場の正規視察と運営に関する指導及び助言
期 日：平成22年11月29日（月）～30日（火）
場 所：和歌山県和歌山市・（仮称）つつじヶ丘テニスコート場他
出席者：森清吉国体委員長、杉澤雅敦副委員長、鈴木宏事務局長
和歌山県テニス協会、和歌山県県、和歌山市
内 容：テニスコート予定地視察、宿泊、輸送、競技運営に関する指導及び助言

事業区分：7

事業名：財団法人日本体育協会 国体委員会への出席

- ①平成22年度第1回国体競技運営部会 平成22年6月17日（木）
- ②平成22年度第一回国体ワーキンググループ 平成22年7月1日（木）
- ③平成22年度第二回国体ワーキンググループ 平成22年8月17日（火）
- ④平成22年度第三回国体ワーキンググループ 平成22年12月1日（水）
- ⑤平成22年度第四回国体ワーキンググループ 平成23年1月11日（木）
- ⑥平成22年度第五回国体ワーキンググループ 平成23年2月22日（火）

以上

実業団委員会（委員長：矢澤 猛）

事業区分：2

事業名：1. 第25回テニス日本リーグの開催

2. 第24回全国実業団対抗テニストーナメント（A大会）の開催
3. 第49回全国実業団対抗テニス大会（ビジネスパル・テニス）の開催
4. 定例会議、日本リーグ関係会議他の開催

事業内容：

1. 第25回テニス日本リーグの開催

(1) 1st ステージ：平成22年12月2日（木）～5日（日）

会場：横浜国際プール・兵庫ブルボンビーンズドーム

(2) 2nd ステージ：平成23年1月21日（木）～23日（日）

会場：横浜国際プール・兵庫ブルボンビーンズドーム

(3) 決勝トーナメント：平成23年2月11日（金）～13日（日）

会場：東京体育館

男子16チーム、女子10チームをそれぞれ2ブロックに分けリーグ戦を行い、男子は各ブロック上位3チーム計6チーム、女子は上位2チーム計4チームによる決勝トーナメントの実施。試合は2シングルス・1ダブルスにて行う。

ファースト・セカンドステージの試合会場については、横浜国際プールと兵庫ブルボンビーンズドームの2会場開催になった。

東京体育館の決勝トーナメントは、男子は昨年同様、準々決勝から開始、1位～6位までの順位決定を行った。また、日曜日の試合開始前にチアリーディングチーム（日本女子体育大学）の演技を開催し大会を盛り上げた。準決勝戦および決勝戦・3位決定戦は同時試合開始形式で行い、チーム関係者や学生、一般の応援者が会場に足を運んでくれた。またダンロップの協賛がヨネックスに変わり、スタッフのユニフォームを一新し明るいイメージを演出したり、臨場感を味わってもらうためにコートサイドの観覧席を設置し全体として選手・運営・観客の一体化が進んでいる。

広報においては、決勝トーナメント開催前に日本経済新聞の朝刊紙面を使い告知記事を掲載したり、テニス雑誌には特集記事を組んでもらい、ホームページではテニスナビの協力を継続して観客動員を目的としながら一般社会に向けたアピールをした。

決勝の東京体育館では東京都生涯学習文化財団と東京都教育委員会主催の親子クリニックを開催。学連や私学の中学校へ決勝トーナメント観戦招待を行い学生の関心も高めている。

またアンチ・ドーピング対象大会の指定が継続され検査が実施された。

尚、今後の日本リーグの発展にむけて、各方面の意見を聞きながら引き続いて検討していく。

2. 第24回全国実業団対抗テニストーナメント(A大会)の開催

平成22年10月14日(木)～17日(日)

会場：広島広域公園テニスコート

日本リーグ昇格チーム決定の大会で、男子16チーム、女子15チームにより行われ、男子は上位4チームが昇格を決めた。女子は上位2チームが日本リーグ降格2チームと入れ替え戦を行い2チームが昇格。試合は日本リーグと同じく2シングルス・1ダブルスにて行う。

A大会に参戦する女子チームの減少傾向であったが、補強選手登録制度を利用したチームも増えてきている。勝ち進んだ場合に日本リーグへの昇格意思を示すチームも増えてきているのは明るい材料である。

3. 第49回全国実業団対抗テニス大会(ビジネスパル・テニス)の開催

平成22年8月27日(金)～29日(日)

会場：帯広市 帯広の森テニスコート

男子32・女子24チームの1シングルス・2ダブルスによるリーグ戦及びトーナメントを行う。リーグ戦各ブロックの同順位毎にトーナメントを行うため全チーム2～3日間にわたり試合を行う。北海道・帯広で3年ぶり2回目の開催を行い、前回の経験を生かし効率の良い大会運営を行うとともに400名を超す懇親会も大いに盛り上がりを見せた。

大会を活性化していくために全国委員会で議論し改善できるところから実行に移している。

4. 定例会議、日本リーグ関係会議他の開催

(1) 全国実業団委員会

① 第1回全国実業団委員会：平成22年7月3日(土) 会場：千代田区スポーツセンター

② 第2回全国実業団委員会：平成23年3月5日(土) 会場：千代田区スポーツセンター

(2) 全国実業団常任委員会

① 第1回常任委員会：平成22年5月8日(土) 会場：千代田区スポーツセンター

② 第2回常任委員会：平成22年10月2日(土) 会場：千代田区スポーツセンター

(3) 日本リーグ部長会

① 第1回部長会：平成22年5月8日(土) 会場：千代田区スポーツセンター

② 第2回部長会：平成22年10月2日(土) 会場：千代田区スポーツセンター

(4) 日本リーグ監督会議・運営委員会：

平成22年11月27日(土) 会場：千代田区スポーツセンター

(5) 検討委員会

① 日本リーグ検討委員会：平成22年4月3日(土) 会場：千代田区スポーツセンター

② 日本リーグ臨時検討委員会：平成22年9月11日(土) 会場：千代田区スポーツセンター

5. 実業団事務局継続

22年度より業務内容を継承している新しい業務委託先(TSO)で実業団事務局を運用し、業務内容の改善を図り、実業団委員会の大会・行事を滞りなく終了し年間通して事務局業務を遂行した。

以上

ベテラン委員会 (委員長：土屋 善二)

1. 全国ベテラン委員会他、平成22年度中に7回のベテラン委員会を開催し、ベテラン大会の活性化と諸問題点を協議。各種大会の運営と運営関し協力を行った。特に22年度中に於い

てはベテランJOP制度の見直しを5年ぶりに行った。JOPポイント配点表を全面的に改正し、予選制度によるポイントを付与することとし、選手の大会の参加を容易にした。選手のランキング決定方法も改正し、グレードA1～D2までのJOP加算大会数を4大会から3大会とした。他の大会と合わせて最高で7大会から6大会に減らし、プレーヤーの負担を軽減した。また各種の大会の環境を整備し、質の高い充実した大会になるよう努めた。

2. 第71回全日本ベテランテニス選手権大会の開催

日 程：平成22年10月5日（火）～10月16日（土）
種 目：男子単 35, 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70, 75, 80 才以上 10 種目
男子複 35, 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70, 75, 80 才以上 10 種目
女子単 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70 才以上 7 種目
女子複 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70, 75 才以上 8 種目 以上 35 種目
会 場：名古屋市・東山公園テニスセンター
(室内外共砂入り人工芝コート 20 面*内 4 面室内)

グレード：A

補 足：①第72回全日本ベテランテニス選手権大会参加者は、全国的なベテランテニス活性化に伴い、地域大会を始めとして、JOP対象大会の各種大会への参加選手は毎年増加傾向にある。

②ベテランJOP対象大会は、グレードAの本大会を頂点として、B1(1大会), B2(2大会), C1(2大会), C2(2大会), D1(6大会), D2(5大会), E1(35大会), E2(25大会), FHG(62大会) および日本スポーツマスターズテニス競技の計140大会がある。

③女子75才以上ダブルス競技を新設し実施した。

3. 第34回全日本グラスコートベテランテニス選手権大会の主催及び運営協力

本 戦：平成22年11月1日（月）～11月17日（水）

種 目：男女単複 35 種目

会 場：佐賀市・グラスコート佐賀テニスクラブ（天然芝コート 16 面）

参加資格：①JTAに当該年度（2010年度）の選手登録を行なった選手・プロフェッショナル登録者

②ベテランJOPランキング規程によるベテランJOP取得者

グレード：B1

補 足：①全日本ベテラン選手権大会に次ぐ大会であり、わが国唯一の天然芝コートでの大会である。

②参加者数は前年度大会と比較して増加しているが、長期間に亘る大会となり、色々な問題が生じている。

4. 47都道府県協会主催ベテランJOPグレードE大会FGH大会の推進と運営協力

事業内容：ベテランテニスの発展拡充計画の一方策であるJOP対象大会を公認し、グレードE大会（都道府県単位で開催）は、各協会のご協力を得て、22年度E1（オープン）は35大会、E2（クローズ）は25大会、計57大会が開催された。

グレードFGH大会（市町村・クラブ単位で開催）は身近な大会でもあり、昨年の44大会から62大会へと増加した。ベテラン選手登録者も昨年3月末7585名から本年3月末現在7773名と増加した。高齢化社会に伴って、今後更なるベテランプレーヤーの増加が見込まれる。

また、各種の大会開催の環境を整備し、充実した運営に協力した。

5. 日本スポーツマスターズ・テニス競技の運営と協力

主催者財団法人日本体育協会の委託事業として第10回本大会を共同主催し、運営主管の三重県テニス協会の運営に協力した。

抽 選 会：平成22年8月2日（月）

岸記念体育会館 101 号会議室
 前夜祭：平成 22 年 9 月 17 日（金）
 「四日市都ホテル」にて
 期 日：平成 22 年 9 月 18 日（土）～20 日（月）
 会 場：三重県営鈴鹿スポーツガーデン庭球場
 開 始 式：平成 22 年 9 月 18 日（土）9:00～
 開始宣言……………大会ディレクター 土屋善二
 大会会長挨拶…日本テニス協会副会長 田中耕二（盛田会長代理）
 歓迎の言葉……………三重県テニス協会会長 川崎二郎
 // ……鈴鹿市副市長 松原俊夫
 // ……大会シンボルメンバー 佐藤直子
 競技説明……………大会レフェリー 青木昌之
 種 目：男子単 35 才以上，複 45 才以上，女子単複 40 才以上 4 種目
 参加資格：J T A 選手登録者にして、各都道府県協会の推薦（推薦方法は任意）による男女
 単複各 1 名 1 組（主管担当県は 2 名 2 組）48 ドローとする。
 参加人数：男子単 48 名、複 48 組（96 名）計 144 名
 : 女子単 48 名、複 48 組（96 名）計 144 名 合計 288 名
 補 足：全種目不参加は、北海道、佐賀県であった。

6. 国際ベテラン大会への選手派遣

①アジア都市対抗ベテラン大会

本大会は、アジア地域ベテランテニスプレーヤーの相互理解と友情を深めると共に、
 ベテランテニスを通じて、国際親善に大いに貢献する事を目的として、1986 年より開
 催され、本年度も日本選手団一チームを派遣した。

主 催：アジアテニス連盟（ATF）

期 日：平成 22 年 10 月 22 日（金）～28 日（木）7 日間

会 場：中国・北京市

種 目：男子複 55, 60, 65, 70, 75 才以上各 1 組
 女子複 60, 65 才以上各 1 組 計 7 組による団体戦

②第 23 回北京市国際元老網球大会

主 催：北京市網球協会 北京市元老網球協会

期 日：平成 22 年 10 月 22 日（金）～28 日（木）

会 場：中国・北京市

種 目：男子ダブルス 9 種目 シングルス 7 種目 計 16 種目
 女子ダブルス 7 種目 シングルス 6 種目 計 13 種目
 混合ダブルス 3 種目

参加人数：22 名（現地参加 3 名含む）

7. 財団法人日本体育協会主催日本スポーツマスターズ委員会への出席

①スポーツマスターズ 2010 三重大会第 1 回連絡会議

期 日：平成 22 年 4 月 21 日

場 所：日体協理事監事室（2F）

出席者：斉藤裕斗

②スポーツマスターズ 2010 大会第 1 回マスターズ委員会

期 日：平成 22 年 6 月 8 日

場 所：日体協理事監事室（2F）

出席者：相川眞智子

③スポーツマスターズ 2010 三重大会第 2 回連絡会議

期 日：平成 22 年 6 月 24 日

場 所：岸記念体育会館 101・102 号会議室

出席者：相川眞智子、斉藤裕斗

- ④スポーツマスターズ 2010 三重大会組合せ抽選会
 期 日 : 平成 22 年 8 月 2 日
 場 所 : 岸記念体育会館 101 号会議室
 出席者 : 土屋善二、中西伊知郎、角由信、青木昌之、山本直樹、福山達、勝田成仁
 浅川圭子、村上交周、金澤博子、相川眞智子、斉藤裕斗、今村貴昭
- ⑤スポーツマスターズ 2010 三重大会第 3 回連絡会議
 期 日 : 平成 22 年 8 月 30 日
 場 所 : 岸記念体育会館 101・102 号会議室
 出席者 : 土屋善二、相川眞智子
- ⑥スポーツマスターズ 2010 三重県大会第 4 回連絡会議
 期 日 : 平成 22 年 12 月 9 日
 場 所 : 日体協理事監事室 (2F)
 出席者 : 土屋善二、相川眞智子、斉藤裕斗
- ⑦スポーツマスターズ 2010 第 2 回マスターズ委員会
 期 日 : 平成 23 年 3 月 1 日
 場 所 : 日体協理事監事室 (2F)
 出席者 : 中西伊知郎

以上

審判委員会 (委員長: 岡村 徳之)

事業区分: 4

事業名: 国際審判員、レフェリー養成事業並びに審判員、レフェリー養成事業の開催

- 事業内容: 1 有望新人の発掘と審判員育成のために各大会において評価を実施した。
 2 ITF レベル 1 スクール開催: 6 月 昭島にて開催 12 名
 3 ITF ホワイトバッジ保持者リフレッシュスクール開催:
 11 月 名古屋東山公園テニスコートにて開催 参加 14 名
 4 審判員育成のため国内の ITF 大会へ派遣の旅費、宿泊の補助を行った
 5 次年度に向けてレフェリー・審判強化プロジェクトの計画を作成した

事業区分: 4

事業名: 審判員養成、拡大事業への開催

- 事業内容: 1 C 級審判員認定会への講師派遣: C 級認定会 年間計 16 回 派遣
 合格者総数 約 360 名
 ルール実技講習会 年間計 3 回 派遣
 全国認定会用教材を CDROM で作成し講義内容を充実すべく整備した。
 2 B 級審判員認定会 : 年 1 回 1 月 8, 9 日 NTC にて開催 37 名合格
 3 B 級レフェリー認定会 : 年 1 回 1 月 9, 10 日 NTC にて開催 12 名合格
 4 B 級チーフアンパイア認定会 (初) : 年 1 回 京都市体育館にて開催
 28 名合格
 5 関東学生連盟の講習会 : 7 月東京にて開催 約 500 名
 専門学校においての認定講習会 年間計 3 回開催 (C 級開催実績に含む)
 6 国体の審判員育成のため、マニュアル検討し、実技指導を行った。
 7 A 級レフェリー候補者調査のため、全日本選手権出場に関連する大会の
 書類提出依頼をし集計した。
 ** 3 月開催予定であった C 級認定講習 3 回、ルール講習 3 回が震災のため
 中止となった

事業区分: 2

事業名: 審判員派遣事業の開催

- 事業内容: 1、以下の大会にレフリー、チーフアンパイア、主審、線審の派遣を行った。

国際大会 257 名 (レフリー、チーフ、主審) 2528 名 (線審延べ人数)
国内大会 42 名 (レフリー、チーフ、主審) 654 名 (線審延べ人数)

全日本選手権、全日本室内、日本リーグ

ITF 男子フューチャーズ 10 大会

ATP チャレンジャー 2 大会

ITF 女子サーキット 19 大会

WTA ツアー 2 大会

ITF ジュニア 5 大会

ATF ジュニア 1 大会

ITF 車いす 1 大会

JTA 大会 3 大会

2、海外大会への派遣を行った

全豪オープン、全仏オープン、ウィンブルドン、全米オープン、アジア大会、
WTA, ATP, Fed カップ、ITF サーキット等

3、各大会に派遣した審判員よりレポートを提出してもらい情報集積をした。

4、カナダの国際審判員の協力を得て、カナダの大会へ 2 名の日本人審判を派遣した。

事業区分：8

事業名：ルールブックの編集と発行事業

事業内容：ルールブック 2011 の編集と出版 (2 万部)

ルールに関する問い合わせへの回答・年間 50 回程

事業区分：4

事業名：公認審判員管理登録事業の開催

事業内容：1 審判員の登録管理

2 新規登録並びに登録更新

(2010 年度手続き人数 C 級審判 1107 名、B 級審判 118 名、
B 級レフェリー 207 名、B 級チーフアンパイア 27 名)

事業区分：1 1

事業名：他のスポーツ・諸外国テニス界の審判育成システムの調査事業の開催

事業内容：諸外国テニス界の審判育成システムの調査を行った。

事業区分：1 1

事業名：審判関連情報提供事業の開催

事業内容：審判員の新規獲得を効率よくすることを目的に昨年度開設した JTA ホームページのアップデートを行い、審判員に情報をリアルタイムで提供した。

講習会等のスケジュールをホームページ上で公開した。

以上

専務理事直轄

全国プロジェクト（マネージャー：小浦 武志）

事業区分：11

事業名：47都道府県トレーニングセンター（ふるさとTC）設置及び推進に向けた活動

事業内容：JTA強化指導指針（2002年策定）におけるトレセン構想の具体的な設置及び推進を図ることを本委員会の活動目標とした。これに沿って以下の活動を行った。本年度は主に設置・承認に係る推進期間として、各県の設置申請の受理及び承認するためのアセスメント、そして、承認プロセスの策定による推進を行った。

1. 「ふるさとトレセン」設置推進の依頼文の送付（5月22日）

都道府県テニス協会理事長へ、ブロックトレセン設置趣旨書、承認基準、登録申請書を送付依頼する。

2. 愛媛テニストレーニングセンター設置申請書の内容説明（7月14日 小浦、重松）

本部長会議にて、設置時の企画内容、準備状況、環境要因の説明

3. 公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会 NTC（9月6日 小浦、重松）

都道府県トレセンの設置推進について、愛媛TTCをモデルケースとして説明する。

テニス競技人口拡大の為には、低年齢からの普及育成による、テニス人口の増加が急務であり、地域密着型トレセンの推進が競技力向上には重要となる。

4. 全国プロジェクト委員会 ふるさとトレセン推進会議

（1月22日松山中央公園テニスコート会議室 小浦、浅沼、堀川、西村、吉村、重松）

① 2年間の課題と反省、今後の方針について協議する。設置申請の承認は、書類審査及び活動実績から、愛媛・島根・兵庫については承認とし、申請の香川・徳島・佐賀・山口は、23年度に現地にてアセスメントを行い再審査とする旨を常務理事会に提案することとした。

② 全国プロジェクト委員会の事業推進において、組織的な構築が必要であり、普及・強化にからメンバーを加え活動を進めることを協議する。

③ 23年度 toto 申請に向けての準備活動としての、タレント発掘一貫指導育成事業については、ブロックトレセン承認の県を対象として、ナショナルコーチの派遣等が可能となるような推進案を協議する。

事業区分：11

事業名：ワンコイン制度の定着と発展

事業内容：本制度の定着と発展を側面から支援する広報活動を行った。具体的には、ふるさとトレセン活動の内容において、ワンコイン制度還元事業として、将来、ナショナルトレーニングセンター及びエリアトレーニングセンターとの人的スタッフ等の派遣協力も含めた連携強化・機能強化の調整及び事前協議を行った。また、ふるさとトレセンの設置依頼での面談説明や指導者講習会等を利用して広報活動を行った。

事業区分：11

事業名：国体テニス競技におけるテニスコートサーフェスの検討

事業内容：強化本部からハードコート宣言が発信されたことを受けて、国体開催地でのコートサーフェスの改修や、ふるさとトレセンの拠点設置基準に、テニス強化の観点から、会場をハードコート（またはクレーコート）にするよう推奨、働きかけをした。

岐阜県では、ハードコートに改修が終了し、また、愛媛県においてもハードコートが決定しており、その他数か所の国体会場でも、この宣言に則った方向で、関係行政機関及び県テニス協会等の間で検討が進められている。

近年のハードコートは、スローハード、あるいはソフトな感触が謳われ、一般の方々

にもアピールできる商品が開発されており、次年度以降も、全国プロジェクト委員会活動の一環として、都道府県を訪問する機会を捉え、ハードコート宣言のさらなる具現化に取り組んだ。

以上

財務管理委員会（委員長：岡橋 修）

事業区分：1 1

事業名：JTA の健全な財務体制確立と維持及び適正な会計処理に向けて提言を行う。

事業内容：1. 予算編成会議を開催し JTA の予算、決算及び収支に対する助言を行い、また会計管理システムの側面支援を行った。

2. 財源確保の検討、協賛企業との接触に付き今後の方向性についての議論を行った。
3. 公益法人化対策委員会と連携し、新基準における財務管理体制の適正化検討を図った。
4. JTA と財界を結ぶ「悠遊テニス会」の年二回の開催運営を行った。
また今後の定着も図った。

以上

常務理事会直轄

倫理委員会（委員長代行：小泉 弘子）

事業区分：1 1

事業名：倫理規程の浸透と啓蒙活動の実施ならびに倫理観の研究活動

事業内容：倫理委員会は、発生する倫理問題に加え、パワー・セクシャルハラスメント等の諸問題について対応を重ね、テニス界の好ましい発展に向けて活動を続けたが、本年度は幸運にも委員会として対応すべき問題の発生は避けられた。

しかし、本委員会は倫理問題への事後的対処に終始するだけでなく、未然に防ぐことと発生を予防する施策についても論議を行い、テニス界の公明正大でかつ健全化の実現に努めた。

事業区分：1 1

事業名：倫理規程ならびに罰則規程の見直しと改定

事業内容：倫理規程の適用範囲が一般愛好者まで及んでいたため、これを J T A の関係者へと改正し、更にジュニア憲章との整合性を考慮し一部の条文を改正するとともに、ジュニア選手や指導者、家族にも注意喚起を促す内容へと改定を行った。

また、罰則規程は倫理委員会罰則規程として制定したが、倫理問題に罰則はないことから、本規程を懲罰委員会に属する規程と改定した。

あわせて、条文中の字句の修正を行い、この改定で倫理規程の効力を確保し速やかな問題解決に対処する体制を整えた。

以上

危機管理委員会（委員長：内山 勝）

平成 2 3 年 2 月に発生したニュージーランドの震災に際し、国際委員会の協力を得て、現地

遠征していた選手の状況把握と帰国を促し、手助けを行った。

以上

国際委員会（委員長：川廷 尚弘）

1. 国際テニス連盟及びアジアテニス連盟、日本オリンピック委員会他団体の会議出席、並びに行事への参加。海外各国協会、大会への協力活動、及び関係者への対応と情報伝達

(1) 国際会議への派遣

1) 国際テニス連盟（ITF）関係

① 年次総会

2010年8月23日～25日 於：ワシントンDC・アメリカ

出席： 川廷榮一（ITF 名誉副会長）

内山 勝（JTA 代表）

川廷尚弘（JTA 代表）

内容： 大会、行事、財務、その他の報告と提案、討議。規約の改正、会員資格の認定、競技規則の変更等を承認。

② 事務局：

川廷尚弘がアジア地域エグゼクティブとして、各国協会の組織指導、大会協力、審判講習会等に従事。

2) アジアテニス連盟（ATF）関係

① 年次総会

総会：2010年3月24日～25日 於：江門・中国

出席： 川廷尚弘（JTA 代表）

中川 淳

内容： 大会、行事、財務、その他の報告と討議。役員改正規約の改正の承認。

2. 海外国際大会への出席及び総合国際競技会への参加

2010年5月 フレンチオープン（各国代表および選手関係者との会合）

2010年6月 ウィンブルドン（各国代表および選手関係者との会合）

2010年9月 全米オープン（各国代表および選手関係者との会合）

2011年1月 オーストラリアンオープン（各国代表および選手関係者との会合）

2011年3月 マイアミ大会、インディアンウエルズ大会

視察及び大震災に関連の事項で、ATP、選手と打ち合わせ

3. 国際団体会議・行事への出席

(1) 国際会議への出席

1) 国際テニス連盟

オリンピック委員会

出席：川廷榮一（オリンピック委員）

Recognition & Reward 評議会

出席：川廷榮一（R&R委員）

女子サーキット委員会

出席：川廷尚弘（女子サーキット委員）

審判部会

出席：川廷尚弘（アジア地域エグゼクティブ）

2) ATP

ディレクター会議

ウィンブルドン、全米オープン、マイアミ（2011年3月）

以上